

オトナのための日本語塾

レポート集 2020

武庫川女子大学言語文化研究所 編

まえがき

この冊子は、武庫川女子大学言語文化研究所による「オトナのための日本語塾」（以下、日本語塾）に参加された“塾生”によるレポート集です。日本語塾は、日本語の表現と理解のあり方について改めて考えてみようという場です。言語研究者ではない、普通の人たちが集まって学んでいます。

今年度は、コロナ禍の中で例年通りの開催というわけにはいきませんでした。前半は開店休業状態、後半になって、集中的に開催せざるを得ませんでした。そんな中で、今年はいつもの以上の活気にあふれた塾となりました。

その理由は、今年度から言語文化研究所長になられた影山尚之先生が、日本語塾にご参加くださったからです。先生のご専門は万葉集ですが、古代から現代に至る疑問、特に塾長には苦手で答えられない問題について、塾生の質問に丁寧に答えてくださいました。時代劇に出てくる剣術道場で、道場主より強い師範代がいて道場を守るという設定がよくありますが、日本語塾はまさにそういう趣になりました。おかげで、塾はこれまで通りの和気あいあいとした雰囲気に加えて、知的レベルが上昇しました。塾生の人たちにもとても喜んでもらえて、塾長としては嬉しい限りです。

とは言え、塾生の皆さんはレポート作成にさまざまな苦勞をなさったようです。日本語塾の開催期間は実質的には半年しかなく、近くの図書館に行くのにもコロナ感染対策による制約があるといった状況だったからです。その苦勞の結晶がこの冊子です。どうぞご一読いただきますようお願い申し上げます。

塾長 佐竹 秀雄

目 次

まえがき

佐竹 秀雄

レポート

接尾辞〈かす〉をもつ動詞

上野 和美 3

清く正しく美しく

竹腰 純 16

無印良品とユニクロの商品説明

三好 由希子 27

洗剤の商品にかかわる表現

北畠 るり子 35

肩書が示すもの ―私は何でしょう?―

高野 啓 39

《記 録》

接尾辞〈かす〉をもつ動詞

上野 和美

1. はじめに

「やってしまった」の意で使われた「やらかした」という言葉を聞いて、なぜ〈やる〉に〈かす〉が付くのかと気になった。「驚かす」や「乾かす」は「驚く」「乾く」の他動詞形であり、「書かす」や「歩かす」は「書く」「歩く」の使役形（文語）である。どちらも基本となる形（「驚く」「乾く」「書く」「歩く」）がカ行五段（文語で四段）活用の動詞で、その未然形語尾〈か〉に〈す〉がつき、「～かす」になっている。しかし、「やらかす」はそうではない。「やる」はラ行の動詞であり、「やる」には「やらせる（／やらす）」という使役形がある。そして、「やらかす」はそもそも使役ではない。一体、この〈か（す）〉はどこから出てきたのか。何の意味の〈か（す）〉なのか。

「やらかす」に限らず、元の語がカ行動詞でもないのに〈かす〉の付く語は、他にも「はぐらかす」や「冷やかす」など、数は多くないと感じるものの、いくつか存在する。そこで、〈かす〉の付く語にはどのような語があるのか、また、どうして〈かす〉を付けて表現するのかについて調べた。

2. 辞書に見る〈かす〉付き動詞

『広辞苑』第五版で接尾辞〈かす〉の付く動詞として挙げられているのは以下の96である。これらは『逆引き広辞苑』の「かす：他動詞を作る接尾語」に分類されている。

あせらかす	<small>あま</small> 甘やかす	<small>いか</small> 怒らかす	<small>う</small> 浮からかす	<small>うっちゃ</small> 打遣らかす	<small>うや</small> 飢らかす
<small>おく</small> 後らかす	おちやかす	<small>おびや</small> 脅かす	おひやかす	<small>おほ</small> 溺らかす	<small>お</small> 生やかす
<small>かえ</small> 返らかす	<small>かえ</small> 孵らかす	<small>か</small> <small>ち</small> 搔っ散らかす	<small>かどわ</small> 勾引かす	かぶらかす	<small>く</small> 腐らかす
<small>くゆ</small> 燻らかす	<small>くる</small> 狂はかす	<small>け</small> <small>ち</small> 蹴散らかす	<small>ころ</small> 転ばかす	<small>さか</small> 栄やかす	<small>さ</small> <small>ほこ</small> 差し誇らかす
<small>しず</small> 垂らかす	<small>しそな</small> 為損はかす	戯かす	<small>しら</small> 白かす	<small>しら</small> 白まかす	<small>すべ</small> 滑らかす
せせらかす	せびらかす	せぶらかす	<small>そそな</small> 唆はかす	<small>そぼ</small> 戯へかす	<small>そび</small> 聳やかす
<small>たぎ</small> 滾らかす	<small>ただ</small> 爛らかす	<small>たぶら</small> 誑かす	<small>たぶら</small> 誑かす	<small>だま</small> 騙かす	だまくらかす
<small>たむら</small> 誑かす	ちゃかす	ちゃらかす	ちょうらかす	ちよがらかす	<small>ち</small> 散らかす
<small>つか</small> 疲らかす	<small>つばな</small> 茅花かす	<small>とが</small> 尖らかす	<small>とんが</small> 尖らかす	<small>なら</small> 習はかす	<small>にご</small> 濁らかす
<small>ぬめ</small> 滑らかす	<small>のが</small> 逃らかす	はぐらかす	<small>はし</small> 走らかす	<small>は</small> 撥ねかす	<small>ほふ</small> 放らかす
<small>はや</small> 流行らかす	<small>はらら</small> 散かす	光らかす	ひけらかす	ひひらかす	冷かす

膨 <small>ふく</small> らかす	ふけらかす	打 <small>ぶ</small> つ散 <small>ち</small> らかす	放 <small>ほか</small> らかす	誇 <small>ほこ</small> らかす	綻 <small>ほころ</small> ばかす
ほっ散 <small>ち</small> らかす	ほっぼらかす	潤 <small>ほと</small> ばかす	紛 <small>まぎ</small> らかす	惑 <small>まど</small> わかす	迷 <small>まよ</small> はかす
丸 <small>まる</small> かす	丸 <small>まる</small> かす	転 <small>まろ</small> ばかす	転 <small>まろ</small> まかす	回 <small>まわ</small> かす	見 <small>み</small> 転 <small>くる</small> べかす
見 <small>み</small> せびらかす	回 <small>めぐ</small> らかす	戻 <small>もと</small> らかす	戻 <small>もと</small> ろかす	斑 <small>もどろ</small> かす	貫 <small>もら</small> かす
雇 <small>やと</small> はかす	遣 <small>や</small> らかす	揺 <small>ゆ</small> らかす	走 <small>わし</small> らかす	笑 <small>わら</small> かす	笑 <small>わら</small> はかす

この96語を概観すると、『広辞苑』の見出し語に立つ語とはいえ、今日ではほとんど耳にすることのないような古語の多いことがわかる。また「誑たぶらかす」「誑たぶらかす」「誑たむろかす」や「尖とがらかす」「尖とんがらかす」はそれぞれ元の語が同じであると思われ、それらをまとめると、日常で広く使われる〈かす〉付き動詞は、かなり限られている。96語のうちいくつがいわゆる「現役語」と呼べる語なのか。「新語に強い」と謳う小型辞書で、今日の日常語に目配りが利いているとされる『三省堂国語辞典』（以下、『三国』と略記）に掲載があるかを調べた。『三国』にも掲載されている語は以下の25語のみであった。

甘 <small>あま</small> やかす	怒 <small>いか</small> らかす	おちゃらかす	脅 <small>おびや</small> かす	拐 <small>かどわ</small> かす（勾引かす）
腐 <small>くさ</small> らかす	蹴 <small>けち</small> 散らかす	聳 <small>そび</small> やかす	誑 <small>たぶら</small> かす	騙 <small>だま</small> かす
だまくらかす	ちゃかす	散 <small>ち</small> らかす	尖 <small>とが</small> らかす	尖 <small>とんが</small> らかす
はぐらかす	ひけらかす	冷 <small>ひ</small> （や）かす	膨 <small>ふく</small> らかす	打 <small>ぶ</small> つ散 <small>ち</small> らかす
ほっぼらかす	紛 <small>まぎ</small> らかす	見 <small>み</small> せびらかす	遣 <small>や</small> らかす	笑 <small>わら</small> かす

そもそも接尾辞〈かす〉はどういうものであるのか。『精選版日本国語大辞典』（以下、『日国』と略記）では次のように説明されている。

〔接尾〕（五（四）段型活用）他動的な意味を強調するのに用いる。四段活用動詞の未然形に付く場合が多いが、二段活用の動詞の語尾をア段に変えた形などに付く場合もある。

語誌（1）用例は平安初期から見られるが、俗語的、口語的な語であったらしい。カ行四段活用動詞の未然形＋「す」、他動的・使役的な形との類推によって使われるようになったともいわれる。院政・鎌倉・室町期などの文献には用例が多く、現代でも俗語的な感じで用いられ、諸方言にも多く残る。

（2）「散らかす」と「散らす」、「冷やかす」と「冷やす」などのように、対応するはずの語どうしで意味が異なるものもある。

〈かす〉の役目は「他動的な意味を強調する」ことである。つまり、何かに働きかけてそうさせるということを強く表現したい、または、生じた結果は自然のなりゆきではないとい

うことを強く言いたい場合に用いる表現形式である。このことについては 3.と 4.で述べたい。

平安初期にすでに存在した表現のようで、96 語のうち古語が多いのも頷ける。但し、俗語的、口語的であり、現代でも方言に多く残るといふ。『広辞苑』の見出し語に 96 語、『三国』に 25 語という限られた数しか掲げられていない理由はそれであろう。多くは、強調しようとして口から発した語や、感情を乗せて綴った語であるために一般の記録として残りにくいものと推測される。

「四段活用動詞の未然形に付く場合が多いが、二段活用の動詞の語尾をア段に変えた形などに付く場合もある」と書かれているように、〈かす〉の付く前の「元の語」は四段活用か二段活用の動詞がほとんどである。何をもちて元の語とするかの判断は難しいが、複合動詞 10 語を除いて辞書の意味や表記を参考に 96 語を分類すると、四段活用動詞由来の語は 52、二段活用動詞由来の語は 26、その他のものは 8 である。その他の 8 語とは、「あせらかす」「^{そそな}唆はかす」「^{そそ}ちゃかす」「^{そそ}ちゃらかす」「^{そそ}ちょうらかす」「^{つばな}ちよがらかす」「^{つばな}茅花かす」「^{もどろ}斑かす」である。

「あせらかす」は語としてよくわからない。「^{そそな}唆はかす」は、「^{そそのか}唆す」の古い語形と見られる。古語に「^{そそ}其其」や「^{そそ}そそく」など近しいといえなくもない語があるが、元の語は不明のため、その他とした。「^{そそ}ちゃかす」や「^{そそ}ちゃらかす」も元の語を断定することはできないが、『大辞泉』によると「^{そそ}ちゃらつく」などの「^{そそ}ちゃ」と語根が同じという説があり、そうであれば「^{そそ}ちゃら (=口から出まかせのことをいうこと。またその人)」という名詞に〈かす〉が付いた語ということになる。「^{そそ}ちゃ(ら)」の他動詞的派生であり、動詞由来ではない。「^{つばな}茅花かす」は、「^{つばな}茅花 (=チガヤの花)」という名詞にそのまま〈かす〉の付いた語で、珍しい型である。名詞や形容詞、形容動詞の語幹などに付いて、そのような状態になる意を表す〈めく〉¹の他動詞〈めかす〉との混用によって生まれた表現の可能性も否定できないだろう。「^{もどろ}斑かす」も「^{もどろ}斑」に〈かす〉が付いたと考えれば「^{つばな}茅花かす」と同様である。

接続のしかたについてもう一点補うと、二段活用の動詞は語尾をア段に変えた形に〈かす〉の付くものがほとんどだが、「^{そば}戯へかす」「^{そば}撥ねかす」はそれにあてはまらない。下二段のこれらの語は未然・連用形の語尾にそのまま〈かす〉が付いている。

語誌 (2) に『「^{そそ}散らかす」と「^{そそ}散らす」、「^{そそ}冷やかす」と「^{そそ}冷やす」などのように、対応するはずの語どうしで意味が異なるものもある』と記されているが、確かに〈かす〉の付いた形と付いていない形とで意味の違う語がある。

例に挙げられている「^{そそ}散らかす」を『三国』で比較すると、「^{そそ}散らす」が「^{そそ}散るようにする」意であるのに対し、「^{そそ}散らかす」は「^{そそ}乱雑に散らす」である。「^{そそ}散らかす」は散らし方の

¹ 「春めく」「ざわめく」「古めく」など。

程度が無秩序なほどに甚だしいことを表し、バランスよく配置するような散らし方には使えない。酢飯の上に寿司種を彩りよく載せるのは、ちらかし寿司ではなく、ちらし寿司である。「冷やす」と「冷やかす」も、「冷やす」が単に「ひえるようにする」意を表すのに対し、「冷やかす」は「①買わないで、値段だけを聞く（見るだけにする）。②からかう。③〔豆などを〕水につける。ふやかす」意を表す。①と②はモノの温度とは全く関係のない、派生した意味である。対応するはず語に意味の違いが生じると、それぞれの語が独立して存在する意義が出てくる。「散らかす」や「冷やかす」が数少ない現役語として残っているのはそのためではないかと思う。

3. 〈かす〉の意味的分類

3. 1 〈～てしまう〉型

〈かす〉は「他動的な意味を強調するために」用いられるとされている。そのことを確認する意味で、〈かす〉が元の語に対してどのような意味関係にあるかという視点で捉えてみた。例えば、「甘やかす」は、(対象となる人物を)「甘えるように仕向ける」行為なので、元の語「甘える」に対して「～ようにする」意味を添加する機能を果たしている。

このような視点で 96 語を眺めると、元の語が特定できない 12 語を除くほぼ全てが〈～ようにする〉型であったが、その中に例外があった。それが「遣らかす」である。「遣ってしまう」という意味と捉えられるので、いわば〈～てしまう〉型といえよう。

〈～てしまう〉型と名付けたが、この「てしまう」という完了表現は比較的新しい言い回しであり、吉田金彦²が『てしまう』の助動詞の用法は近世以来急にさかんになった語法である」と指摘するものである。新しい表現ではあるが、それが定着し、変化形の「～ちまう」や「～ちゃう」まで誕生させている。この「～てしまう」が広く使われるようになったことで、〈～てしまう〉型の〈かす〉が衰退していったとはいえないだろうか。どちらが鶏でどちらが卵かわからないが、何らかの影響はあるように思う。

唯一ともいえる〈～てしまう〉型で、しかも数少ない現役語である「遣らかす」についても少し述べる。「遣る」の他動的表現としては、使役の「遣らせる」があるが、「遣らかす」とは全く意味が違う。「遣らかす」は、「する」のくだけた言い方である「やる」を強調しているだけで、漢字表記もなじまない。「できる」を他動詞化した「でかす」との混用で生まれた可能性もある。「よくやった」とほめる場合には「でかした」と、「とんでもないことをした」と呆れ、嘆く場合には「やらかした」と言うことができる。「やらかす」と「でかす」とでは使われる時代や使い手層の違いがあると思われるため、対照的な使われ方をしたとは考えにくいだが、「でかす」に影響を受けて「やらかす」が生まれた可能性は否定できない。

さらに、「やらかす」は尋常でない結果をもたらしたという点から、蔑みや後悔だけでない

² 飛田良文『明治生まれの日本語』（角川ソフィア文庫、2019年）からの孫引き。

く、驚嘆や自嘲、果てには称賛をも表しうる。「あいつはとんでもないことをやらかした」は、凶悪犯に対してもノーベル賞受賞者に対しても使える。けなす言葉でありながら、褒め言葉にもなる。「やらかす」は「する」の口語表現である「やる」を最上級にした表現といえよう。但し、さらに「てしまう」を重ねる「やらかしてしまった（／やらかしちゃった）」を使われると、それにはかなわない。

〈かす〉付き動詞のうち、「遣^やらかす」のほぼ一語だけではあるが、この〈～てしまう〉型こそが、意味的には狭義の強調である。

3. 2 〈～ようにする〉型

対象に働きかけて行為者の思うような状態にするというのが〈～ようにする〉型である。甘えるようにするのが「甘^{あま}やかす」であり、尖るようにするのが「尖^{とが}らかす」である。「甘える」の使役の形の「甘えさせる（甘えさす）」、「尖る」の他動詞「尖らせる（尖らす）」とほぼ同義である。

他動詞と使役の関係については本稿で扱わないが、どちらも対象を行為者の思うような状態に変えるという点で意味的に重なる。要するに〈～ようにする〉型の〈かす〉は、働きかけてそのようにする、と捉えることができる。

働きかけの対象についてももう少し細かく見ると、人の心情に関わる語が多いように思う。〈～ようにする〉型 83 語のうち、「怒^{いか}らかす」や「脅^{おびや}かす」など心情（の変化）を表す語は 31 語、「冷^{ひや}かす」や「紛^{まぎ}らかす」のように派生した意味では心情を表すという語は 16 語あり、それらを合わせると全体の半数を超える（心情を表す語については、末尾の一覧表に示す）。

さらに、語そのものとして心情に関わりはないが、文脈次第では人の気持ちに接点を持つという語が一部ある。「聳^{そび}やかす」や「回^{めぐ}らかす」などで、用例「聳レ肩」（『文明本節用集』）、「兵略を回らかさずといふとも」（『盛衰記』）を見ると、人の態度や思考を表しうる事がわかる。単純にモノの状態の変化を表す「躰^{かえ}らかす」や「垂^{しず}らかす」や「滑^{すべ}らかす」とは違いがある。人の心情や態度、思考に何らかの働きかけをする〈かす〉はいわば情動的であり、モノの状態に働きかけをする〈かす〉は即物的である。先ほどの 83 語のうち情動的か即物的かで分けると、情動的といえるものが 54、即物的といえるものが 18、どちらともいえないものが 11 がある。そして、即物的な〈かす〉は古語に多く、18 語中、「膨^ふらかす」を除く 17 語は『三国』に掲載されていない（情動的／即物的についても末尾の一覧表参照されたい）。

4. 〈かす〉付き表現の効用

4. 1 話者の評価を表す〈かす〉

他動詞や使役の形で表現しうるにも関わらず、〈かす〉付き動詞で表現しようとするのは

なぜなのか。意味を強めたいなら副詞を使うこともできる。動詞そのものの形を変えて強調するということには、それなりの理由がある。〈かす〉を使うとどのような利点があるのか、考えてみたい。

〈～てしまう〉型、〈～ようにする〉型のどちらであっても、また〈～ようにする〉型の情動的〈かす〉、即物的〈かす〉のどちらであっても、そこに人為を見いだすことが可能である。〈かす〉付き動詞はほぼ全てが他動詞³なので当然ともいえるが、作為や責任について何かしら話題にしたい意図が感じられる。つまり、その行為に対する話者の評価が表れている。そして、評価といえば、もちろん高評価、好評価もありうるのだが、どちらかといえば非難や批判が話題において有標性を獲得しやすい。「問題なし」か「問題あり」かに判別されるなら、「問題あり」の方が口の端に上りやすいからである。

元の語のイメージの良し悪しを判別すると、末尾の一覧表のようになった。イメージの良い語が極端に少ないことも、〈かす〉付き語の評価機能を証明している。元の語が良いイメージであるのは「栄^{さか}やかす」「光^{ひか}らかす」「ひけらかす」だけである。「栄^{さか}やかす」は「栄ゆ（栄える）」が元の語で、辞書の語釈や「義兵を挙げ、会稽の恥をきよめ、再び家を栄^{さか}やかし給へり」（『平治物語』）という用例から考えて、非難や批判の意図はない。しかし、「光^{ひか}らかす」「ひけらかす」は元の語が「光る」という良いイメージの語であるにも関わらず、その良いイメージは引き継がれていない。少なくとも『広辞苑』の語釈「威光をてらう。自慢顔にふるまう」や「見せびらかす。自慢する」からは、好ましい印象は受けない。『日国』では「光^{ひか}らかす」の方にだけ、語釈の最初に「光らせる」という悪い印象ではない意味の記述がある。ついでながら、ここで押さえておきたいのは「栄^{さか}やかす」も「光^{ひか}らかす」も現役語 25 には入っていないことである。つまり、今も日常語として使われているのは、もはや元の語が「光る」であることにも気づきにくい「ひけらかす」なのである。

ともあれ、〈かす〉付き動詞で表現されたら、誰かの行為に対してコメントしたい、行為の結果の是非を問いたいという話者の意識を見て取ることができる。〈～てしまう〉という行為が発生したことや〈～ようにする〉行為がなされたことに対する話者の評価を受け手は感じるのである。そして、それは往々にしてそのような事態を引き起こした動作主（の心）のありようを問おうとする場合である。裏返して言えば、〈かす〉付き動詞で語ると、起こった事象に対する自分の評価を加えて一語で表現できるということである。

もう一点、〈かす〉付き語を使う利点に関わることとして使役表現の意味の持ち場が広いことを指摘したい。他動詞・使役動詞を含め、使役に関わる表現⁴と大きく捉えた場合、使

³ 「誇らかす」は『広辞苑』では他動詞だが、『日国』では自動詞に分類されている。

⁴ 森田良行は、『動詞・形容詞・副詞の事典』（東京堂出版、2010年）の中で「もともと他動詞には、他動行為の対象を自身の思う状態に変えるという意味合いがある。『卵を立てる』は立ちにくい卵を立つように仕向ける行為であるから、卵への使役行為とも取れないことはない。そこに他動と使役の接点が生じ」と述べている。

役には、そもそもある動作を他の者にさせるといふ以外に、他者が動作をするのを許容・放任する意や、不本意な結果を招いてしまったという偶然の帰結の意がある。森田(2015年)は、さらに細かく①因果関係、②結果、③責任・手柄、④誘発、⑤放置、⑥放任、⑦許容、⑧指令、⑨使役、⑩他動性に意味を分類している。つまり、使役の形で表せるものは多いのである。となれば、〈かす〉は有標性を示す語としていっそう便利に使える表現といえるのではないだろうか。〈かす〉を使えば、通常の使役ではないということを示したり、どういうニュアンスで用いられた語であろうかと相手に注意を向けさせたりすることができる。逆に言えば〈かす〉付き語を使われたら、どの意味で受け取るべきか聞き手は身構えるのである。〈かす〉はマークや信号のような役目を果たしているのではないかと思う。

4. 2 音声的観点から捉える 〈かす〉

〈かす〉という表現は音声的に見ても強調に一役買っているのではないだろうか。語気を強めて発音することが可能であるため、感情の発露と結びつきやすいと思われる。日本語のカ行の子音[k]は、口の中を調音点(この場合は軟口蓋)で閉鎖し、その後開いて一気に息を出す破裂音(閉鎖音)である。口腔内にたまった呼気を勢いよく出すという調音法をとる。一方、〈かす〉〈かせる〉のサ行[s]は口の中を調音点(この場合は歯茎)で狭め、その狭い隙間に呼気を通す摩擦音である。どちらも吐く息に強さや鋭さを感じる音だが、サ行の子音が長く延ばせるのに対して、カ行の子音は瞬間的であり、爆発的である。つまり激しい感情が呼気となって現れやすいといえるのではないだろうか。伝えたい内容を話者がどのように捉え、評価しているのか、聞き手は〈かす〉で察知できる。

カ行音の語気の強さという点に関して、少し話しが逸れるが、次のような現象からも指摘したい。昨今、「だから」よりも「なので」、「～にくい」よりも「～づらい」という表現が若者を中心に好まれているように感じる。インターネットやSNSの発達を背景に、言葉遣いのトラブルに対する警戒心が高まり、「より丁寧に」という意識が働くものと思われる。音の響きに関してそれは例外ではない。つまり、「だから」の「か」、「にくい」の「く」のようなカ行の音をきついと感じて避ける傾向にあるのではないかと推察する。古い言葉の〈かす〉がどのようなトーンで発せられていたのかはわからないが、今日的な音の印象においても、響きとして強いものを感じる。「(怒りで) かつとなる」や「きつとにらみつける」の「かつ(と)」「きつ(と)」にも通じるきつさである。

5. 現代の日常語に見る 〈かす〉付き動詞

これまで述べてきたように、接尾辞〈かす〉は現代語として使われている語は非常に限られ、『広辞苑』掲載の96語のうち『三国』掲載の語はわずか25語である。〈～しまう〉型だけでなく、〈～ようにする〉型においても、吉田が指摘する「てしまう(ちまう/ちゃう)」の助動詞的用法の広がりを受けた可能性はあるだろう。そのような中で生き残ってきたものはどのような動詞であるのか。

25語を見ると、2.2.2で触れたように、人の心情や態度、思考に関わるいわゆる情動的〈かす〉が占めている。単純にモノの状態に働きかける即物的〈かす〉は「膨らかす」の一語のみである。しかもこれは見出し語ではなく、「膨らせる」の語釈の中に登場する。つまり、即物的な用法の〈かす〉付き動詞は、現代の日常で見聞きすることはほとんどないといってもよい。他動詞や使役動詞などに取って代わられた、あるいはそれらで賄われるうちに劣勢になり、衰退していったものと思われる。

現役語が情動的な〈かす〉に限られるのは、情動的な〈かす〉に意味の派生が多くあったからではないだろうか。先述の「散らかす」や「冷やかす」のように、派生した意味がもはや替えの利かない語になっているパターンである。「甘やかす」や「怒らかす」「はぐらかす」がその典型である。「甘やかす」と「甘えさせる」は同義でない。「(ある人物を)甘えるようにする」という意味は共通しているが、「甘やかす」は「甘えさせる」の特殊版で、「子どもなどを厳しくしつけずわがままに育てる」という意味をもつ。「怒らかす」も「怒らす」の意味のうち、「目を大きく開いておどかさす」と「肩などを張って上にあげ、いかめしくする」を担っている。「はぐらかす」も同様である。「連れの人などをうまくまく」と言いたいなら「はぐらす」でも十分表現できるが、「問いに答えないで、うまく話を変える」と言いたいときは「はぐらかす」でないと表現しきれない何かがある。

逆説的な言い方になるが、元の語がすぐにわからない語も現役語である。「ひけらかす」や「だまくらかす」「見せびらかす」は元の語が何かピンとこない。それほど現代日本語として確固たる地位を築いている。つまり、他の語に取って代わることがないということであり、このような語は今後も淘汰されることなく残っていく可能性が高い。

一方、「腐らかす」や「蹴散らかす」「膨らかす」「尖らかす」のように〈か〉のない形で意味が十分賄えるものや言い替えが利くものは、口語や方言で使われ続けられない限り淘汰されていく可能性がある。すでに複合語の「～散らす」と「～散らかす」は、一部棲み分けができていく。上の成分が「蹴る」「打つ」のように音の数の少ない語は「散らす」と「散らかす」のどちらにでも付くが、「あたる」「いぼる」「どなる」「わめく」のような三拍以上の語は「散らす」にしか付かない。意味が同じなら言いやすい方、語呂の良い方が残る。「蹴散らす」と「蹴散らかす」、「打つ散らす」と「打つ散らかす」に意味の違いがない以上、将来的にはどちらかが淘汰されるだろう。強い響きが好まれない昨今、〈かす〉付きの方が危ういように感じる。

6. おわりに

接尾辞〈かす〉をもつ動詞は、行為を話者の評価付きで示せる語であることがわかった。話し言葉を中心に古くから便利づかいされてきた語であるが、近年徐々に使われなくなり、今日では非常に限られた〈かす〉付き動詞を使っている状況にある。そして、現代語として生き残っている〈かす〉付き動詞は、ほとんどが人の気持ちや態度に関わる行為を表す語で

ある。人の心のありようは、古今を問わず他人の評価の対象になる、といえは言い過ぎになるだろうか。

「やらかす」に端を発して〈かす〉付き動詞を調べたが、当の「やらかす」が〈かす〉付き動詞の例外中の例外であることがわかり、調査報告の流れとしてきまりの悪さを感じている。また、これほどまでに古語の割合が多いと思わずに始めた調査であり、古典の知識がないために文語の表現や文法の前に幾度となく立ち竦むこととなった。正直、元の語や元の語との関係がよくわからず、分類の判断があやふやなものも少なからずある。さらに「脅^{おど}かす」「寝かす」という語は、「他動詞を作る接尾語」の〈かす〉をもつ語として『逆引き広辞苑』には挙げられていないため、本稿では扱っていない。96 語とどこが違うのか疑問として残っている。今後の課題として向き合いたい。

今回、接尾辞に着目し、表現に潜んでいるものを探るおもしろさを改めて感じた。言葉のかけらに宿るものを拾い集めていくのは楽しい作業である。しかし、それを全体として捉えたり、系統立てて説明したりするには、古い日本語に関する知識が不可欠であると痛感した。現代日本語を知るための基礎として、まずは古典の表現になじむよう努力したい。

【参考文献】

- 岩波書店辞典編集部編 『逆引き広辞苑』第五版対応 岩波書店、1999 年
見坊豪紀他編 『三省堂国語辞典』第六版 三省堂、2008 年
窪菌晴夫 『音声学・音韻論』 くろしお出版、1998 年
小学館国語辞典編集部編 『精選版 日本国語大辞典』 小学館、2006 年
新村出編 『広辞苑』第六版 岩波書店、2008 年
飛田良文 『明治生まれの日本語』 角川ソフィア文庫、2019 年
松村明編 『大辞泉』第二版 小学館、2012 年
森田良行 『動詞・形容詞・副詞の事典』 東京堂出版、2010 年
森田良行 『助詞・助動詞の辞典』 東京堂出版、2015 年

接尾辞〈かす〉をもつ96語の分類

No.	『広辞苑』の見出し語		元の語				元の語との 意味的關係	心情との 関わり	情動的か 即物的か
	太字は『三国』に もあり	読み	語	活用 (段)	自他	イ メ ー ジ			
1	あせらかす	—						ある	情動
2	甘やかす	あまやかす	甘ゆ(甘える)	二	自	悪	～ようにする	ある	情動
3	怒らかす	いからかす	怒る	四	自	悪	～ようにする	ある	情動
4	浮からかす	うからかす	浮く	四	自	N	～ようにする	ある	情動
5	打遣らかす	うっちゃらかす						△	情動
6	飢かす	うやかす	飢ゆ(飢える)	二	自	悪	～ようにする	ない	情動
7	後らかす	おくらかす	後る(後れる)	二	自	悪	～ようにする	△	情動
8	おちやらかす	—	おひやる+ちや かす	四		悪	～ようにする	ある	情動
9	脅かす	おびやかす	脅ゆ(脅える)	二	自	悪	～ようにする	ある	情動
10	おひやらかす	—	おひやる	四	他	悪	～ようにする	ある	情動
11	溺らかす	おぼらかす	溺る(溺れる)	二	自	悪	～ようにする	△	情動
12	生やかす	おやかす	生ふ(生いる)	二	自	N	～ようにする	ない	△
13	返らかす	かえらかす	返る	四	自	N	～ようにする	ない	即物
14	孵らかす	かえらかす	孵る	四	自	N	～ようにする	ない	即物
15	搔っ散らかす	かっちらかす						ない	情動
16	勾引かす	かどわかす	かどふ	四	他	N	～ようにする	ある	情動
17	かぶらかす	—	かぶる	四	他	N	～ようにする	ない	即物
18	腐らかす	くさらかす	腐る	四	自	悪	～ようにする	△	情動
19	燻らかす	くゆらかす	燻る	四	自	N	～ようにする	ない	△
20	狂はかす	くるわかす	狂う	四	自	悪	～ようにする	ある	情動
21	蹴散らかす	けちらかす						△	情動
22	転ばかす	ころばかす	転ぶ	四	自	悪	～ようにする	ない	情動
23	栄やかす	さかやかす	栄ゆ(栄える)	二	自	良	～ようにする	ない	即物
24	差し誇らかす	さしほこらかす						ある	情動
25	垂らかす	しずらかす	しづ	二	他	N	～ようにする	ない	即物
26	為損はかす	しそなわかす						ない	情動
27	戯かす	じゃらかす	じゃれる ・ざれる	二		(悪)	～ようにする	ある	情動
28	白かす	しらかす	白く(白ける)	四	自	悪	～ようにする	ある	情動
29	白まかす	しらまかす	白む	四	自	悪	～ようにする	ある	情動

No.	『広辞苑』の見出し語		元の語				元の語との 意味的關係	心情との 関わり	情動的か 即物的か
	太字は『三国』に もあり	読み	語	活用 (段)	自他	イ メ ー ジ			
30	滑らかす	すべらかす	滑る	四	自	N	～ようにする	ない	即物
31	せせらかす	—	せせる	四	他	悪	～ようにする	△	情動
32	せびらかす	—	せぶる (せびる)	二	他	悪	～ようにする	ある	情動
33	せぶらかす	—	せぶる (せびる)	二	他	悪	～ようにする	ある	情動
34	唆はかす	そそなわかす						ある	情動
35	戯へかす	そばえかす	そばふ (そばえる)	二	自	(悪)	～ようにする	ある	情動
36	聳やかす	そびやかす	そびゆ (そびえる)	二	自	N	～ようにする	ない	情動
37	滾らかす	たぎらかす	たぎる	四	自	N	～ようにする	ない	即物
38	爛らかす	ただらかす	ただる (ただれる)	二	自	悪	～ようにする	ない	即物
39	誑かす	たぶらかす	たぶる	四	他	悪	～ようにする	ある	情動
40	誑かす	たぶろかす	たぶる	四	他	悪	～ようにする	ある	情動
41	騙かす	だまかす	だまる	四		悪	～ようにする	ある	情動
42	だまくらかす	—	だまる	四		悪	～ようにする	ある	情動
43	誑かす	たむらかす	たぶる	四	他	悪	～ようにする	ある	情動
44	ちゃかす	—	ちゃ(ら)/ちよ (ら)/ちよ(ろ)			悪	～ようにする	ある	情動
45	ちゃらかす	—	ちゃ(ら)/ちよ (ら)/ちよ(ろ)			悪	～ようにする	ある	情動
46	ちょうらかす	—	ちゃ(ら)/ちよ (ら)/ちよ(ろ)			悪	～ようにする	ある	情動
47	ちょがらかす	—	ちゃ(ら)/ちよ (ら)/ちよ(ろ)			悪	～ようにする	ある	情動
48	散らかす	ちらかす	散る	四	自	N	～ようにする	ない	情動
49	疲らかす	つからかす	疲る(疲れる)	二	自	悪	～ようにする	△	情動
50	茅花かす	つばなかす	茅花			N	～ようにする	ない	即物
51	尖らかす	とがらかす	尖る	四	自	N	～ようにする	△	情動
52	尖らかす	とんがらかす	尖る	四	自	N	～ようにする	△	情動

No.	『広辞苑』の見出し語		元の語				元の語との 意味的關係	心情との 関わり	情動的か 即物的か
	太字は『三国』に もあり	読み	語	活用 (段)	自他	イ メ ー ジ			
53	習はかす	ならわかす	習ふ	四	他	N	～ようにする	△	情動
54	濁らかす	にごらかす	濁る	四	自	悪	～ようにする	ない	△
55	滑らかす	ぬめらかす	ぬめる	四	自	N	～ようにする	ない	即物
56	逃らかす	のがらかす	のがる (のがれる)	二	自	悪	～ようにする	ない	情動
57	はぐらかす	—	はぐる (はぐれる)	二	自	悪	～ようにする	△	情動
58	走らかす	はしらかす	走る	四	自	N	～ようにする	ない	即物
59	撥ねかす	はねかす	撥ぬ(撥ねる)	二	自 他	N	～ようにする	ない	△
60	放らかす	はふらかす	放る	四	自	悪	～ようにする	△	情動
61	流行らかす	はやらかす	はやる	四	自	N	～ようにする	△	情動
62	散かす	はららかす	はらく	四	自	(悪)	～ようにする	ない	即物
63	光らかす	ひからかす	光る	四	自	良	～ようにする	ある	情動
64	ひけらかす	—	光る	四	自	良	～ようにする	ある	情動
65	ひひらかす	—	ひひらく	四	自	悪	～ようにする	ない	情動
66	冷かす	ひやかす	冷ゆ(冷える)	二	自	N	～ようにする	△	情動
67	膨らかす	ふくらかす	膨る(膨れる)	二	自	N	～ようにする	ない	即物
68	ふげらかす	—	吹ける	四	他	悪	～ようにする	ある	情動
69	打っ散らかす	ぶっちらかす						ない	情動
70	放らかす	ほからかす	放る	四	他	悪	～ようにする	△	情動
71	誇らかす	ほこらかす	誇る	四	自	N	～ようにする	ある	情動
72	綻ばかす	ほころばかす	綻ぶ(綻びる)	二	自	悪	～ようにする	ない	△
73	ほっ散らかす	ほっちらかす						△	情動
74	ほっぼらかす	—						△	情動
75	潤ばかす	ほとばかす	潤ぶ(潤びる)	二	自	N	～ようにする	ない	即物
76	紛らかす	まぎらかす	紛る(紛れる)	二	自	悪	～ようにする	△	情動
77	惑わかす	まどわかす	惑う	四	自	悪	～ようにする	ある	情動
78	迷はかす	まよわかす	迷う	四	自	悪	～ようにする	ある	情動
79	丸かす	まるかす	丸む(丸める)	二	他	N	～ようにする	ない	△
80	丸かす	まるかす	丸む(丸める)	二	他	N	～ようにする	ない	△
81	転ばかす	まろばかす	まろぶ	四	他	N	～ようにする	ない	△

No.	『広辞苑』の見出し語		元の語				元の語との 意味的關係	心情との 関わり	情動的か 即物的か
	太字は『三国』に もあり	読み	語	活用 (段)	自他	イメ ージ			
82	転まかす	まろまかす	まろむ	四	他 自	N	～ようにする	ない	△
83	回かす	まわかす	回る	四	自	N	～ようにする	△	△
84	見転べかす	みくるべかす						ない	情動
85	見せびらかす	みせびらかす						ある	情動
86	回らかす	めぐらかす	めぐる	四	自	N	～ようにする	ない	情動
87	戻らかす	もとらかす	戻る	四	自	N	～ようにする	ない	即物
88	戻ろかす	もとろかす	戻る	四	自	N	～ようにする	ない	即物
89	斑かす	もどろかす	もどろ			悪	～ようにする	△	△
90	貰かす	もらかす	もらふ	四	他	N	～ようにする	ない	情動
91	雇はかす	やとわかす	雇ふ	四	他	N	～ようにする	ない	情動
92	遣らかす	やらかす	遣る	四	自	N	～てしまう	ない	情動
93	揺らかす	ゆらかす	揺る(揺れる)	二	自	N	～ようにする	ない	即物
94	走らかす	わしらかす	走る	四	自	N	～ようにする	ない	即物
95	笑かす	わらかす	笑う	四	自 他	良・ 悪	～ようにする	ある	情動
96	笑はかす	わらわかす	笑う	四	自 他	良・ 悪	～ようにする	ある	情動

- ・『広辞苑』の見出し語の「読み」は現代仮名遣いに統一した。
- ・「元の語」は、明らかな複合動詞については空欄にした。
- ・「イメージ」欄の「N」は中立を、「(悪)」は「悪い」可能性があることを表す。
- ・「心情との関わり」欄の「△」は、派生した意味においては「ある」ことを表す。
- ・「情動的か即物的か」欄の「△」は、どちらともいえないことを表す。

清く正しく美しく

竹 腰 純

1. はじめに

1978年（昭和53年）に兵庫県宝塚市に転居して43年が経過した。宝塚といえば宝塚歌劇だが、数回足を運んだ程度でそれ程のファンでもなく今まで過ごしてきた。しかし、現在所属する団体が2021年（令和3年）に創立50周年を迎え、その記念事業として宝塚歌劇による貸し切り公演を実施することとなった。そこで宝塚歌劇を調べてみることにした。

2. 宝塚歌劇の歴史

2020年（令和2年）宝塚歌劇は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、休演せざるを得なくなりファンを悲しませた。宝塚歌劇団公式ホームページ『宝塚歌劇100年のあゆみ』を見ると過去にも火災、敗戦、地震等数々の苦難があったようだ。

1913年（大正2年）7月に第一期生16名を採用し「宝塚唱歌隊」を結成、翌年4月1日に宝塚新温泉内のプールを改造したパラダイス劇場で第一回公演が行われた。1919年に「宝塚音楽歌劇学校」を新たに設立、生徒と卒業生で構成される「宝塚少女歌劇団」が組織された。1921年には観客の増加に対応して花組と月組が誕生、順調なスタートを切ったが1923年1月22日の火災で劇場は焼失する。しかし、二ヶ月後の3月20日には公演を再開、翌年7月15日に4,000人収容の宝塚大劇場が完成、7月19日には柿落し公演が行われた。

1927年（昭和2年）に日本初のレビュー『我が巴里よ〈モン・パリ〉』、1930年『パリゼット』が上演され人気は沸騰する。パリゼットの主題歌「すみれの花咲く頃」は現在平日の17時に宝塚市の防災用スピーカーから流れてくる。1930年代に入り、歌・ダンス・化粧などの斬新さが人気を呼び海外公演も成功するが、戦争に突入1944年（昭和19年）3月4日から宝塚大劇場は閉鎖となる。しかし、終戦から一年も経たない1946年4月22日に公演が再開される。歌劇『カルメン』とレビュー『春のをどり』が演目だった。

1970年代には『ベルサイユのばら』や『風と共に去りぬ』などが大ヒットし黄金時代を迎える。その後、1992年（平成4年）11月24日に旧宝塚大劇場は閉場し、68年5ヶ月の歴史に幕を下ろす。翌年1月新宝塚大劇場が開場するが、2年後の1995年1月17日午前5時46分に発生した阪神淡路大震災で閉鎖を余儀なくされる。復旧工事が懸命に行われ二週間後の3月31日に大劇場で公演が再開される。阪神大震災直後の公演『国境のない地図』で主演を演じた星組トップの麻路さきは「客席で涙するファンがいて、もらい泣きしないようにした」と日刊スポーツのコラム『宝塚～朗らかに～』で当時を振り返っている。百年を超える歴史の中で数々の苦難があったが、驚くべきはその復興の早さである。多くのファンに支えられてきた故の回復力なのであろう。

3. 芸名と百人一首

宝塚の舞台には1913年(大正2年)に小林一三が設立した宝塚唱歌隊(現・宝塚音楽学校)を卒業しないと立てない。今年の募集要項を見ると募集人員は女子約40名、試験科目は面接、歌唱、舞踊、健康診断とある。応募資格に中学・高校卒業または高校在学中の方「容姿端麗で卒業後に宝塚歌劇団の生徒として舞台人に適する方」とあるのが「宝塚」らしい。同校の入試は競争倍率が高い。2021年は17.4倍と14年ぶりに20倍を下回ったが、これもコロナの影響と思われる。過去最高の倍率は1994年(平成6年)の48.2倍であった。「東の東大、西の宝塚」と呼ばれる所以である。同校を卒業し、宝塚歌劇団に入団する時に芸名を決める。12期生までは全て百人一首から採られていた。

第1期生≪1913年(大正2年)入団16名≫

- 秋田 衣子 001 秋の田のかりほの庵の苫を荒み わが衣手は露に濡れつつ
大江 文子 060 大江山いく野の道の遠ければ まだふみも見ず天の橋立
逢坂 關子 010 これやこの行くも帰るも別れては 知るも知らぬも逢坂の関
小倉 みゆき 026 小倉山峰のもみぢ葉心あらば 今ひとたびのみゆき待たなむ
雄島 艶子 090 見せばやな雄島の海人の袖だにも 濡れにぞ濡れし色は変はらず
雲井 浪子 076 わたの原漕ぎ出でて見れば久方の 雲居にまがふ沖つ白波
關守 須磨子 078 淡路島通ふ千鳥の鳴く聲に 幾夜寝覚めぬ須磨の關守
高峰 妙子 004 田子の浦にうち出でて見れば白妙の 富士の高嶺に雪は降りつつ
筑波 峯子 013 筑波嶺の峰より落つる男女川 恋ぞ積もりて淵となりむる
外山 咲子 073 高砂の尾の上の桜咲きにけり 外山の立たずもあらなむ
松浦 もしほ 097 来ぬ人を松帆の浦の夕なぎに 焼くや藻塩の身もこがれつつ
三室 錦子 069 嵐吹く三室の山のもみぢ葉は 竜田の川の錦なりけり
三好 小夜子 094 み吉野の山の秋風小夜更けて 舊里寒く衣打つ也
八十島 楯子 011 わたの原八十島かけて漕ぎ出でぬと 人には告げよ海人の釣船
由良 道子 046 由良の戸を渡る舟人かぢを絶え ゆくえも知らぬ恋のみちかな
若菜 君子 015 君がため春の野に出でて若菜摘む わが衣手に雪は降りつつ

第2期生≪1913年(大正2年)入団4名≫

- 篠原 浅芽 039 浅茅生の小野の篠原しのぶれど あまりてなどか人の恋しき
瀧川 末子 077 瀬をはやみ岩にせかるる滝川の われても末に逢はむとぞ思ふ
人見 八重子 047 八重葎しげれる宿のさびしきに 人こそ見えね秋は來にけり
吉野 雪子 031 朝ぼらけ 有明の月と見るまでに 吉野の里に降れる白雪

第3期生≪1915年(大正4年)入団4名≫

- 宇治 朝子 064 朝ぼらけ宇治の川霧たえだえに あらはれ渡る瀬々の網代木
小川 夏子 098 風そよぐならの小川の夕暮れは みそぎぞ夏のしるしなりける
高砂 松子 034 誰をかも知る人にせむ高砂の 松も昔の友ならなくに

高濱 喜久子 072 音に聞く高師の浜のあだ波は かけじや袖の濡れもこそすれ

第4期生≪1916年(大正5年)入団5名≫

秋田 露子 001 秋の田のかりほの庵の苫を荒み わが衣手は露に濡れつつ

天野 香久子 002 春過ぎて夏來にけらし白妙の 衣干すてふ天香具山

有馬 稲子 058 有馬山猪名の笹原風吹けば いでそよ人を忘れやはする

沖野 石子 092 わが袖は潮干に見えぬ沖の石の 人こそ知らね乾く間もなし

三笠 月子 007 天の原ふりさけ見れば春日なる 三笠の山に出でし月かも

第5期生≪1916年(大正5年)入団4名≫

岩瀬 滝子 077 瀬をはやみ岩にせかる滝川の われても末に 逢はむとぞ思ふ

春日 花子 033 久方の光のどけき春の日に しづ心なく花の散るらむ

住江 岸子 018 住の江の岸に寄る波よるさへや 夢の通ひ路人目よくらむ

雪野 富士子 004 田子の浦にうち出でて見れば白妙の 富士の高嶺に雪は降りつつ

第6期生≪1917年(大正6年)入団3名≫

奈良 八重子 061 いにしへ 奈良の都の八重桜 今日九重に匂ひぬるかな

松帆 もしほ 097 来ぬ人を松帆の浦の夕風 に 焼くや藻塩の身もこがれつつ

若菜 君子 015 君がため春の野に出でて若菜摘む 我が衣手に雪は降りつつ

第7・8期生≪1918年(大正7年)入団10名≫

天津 乙女 012 天つ風 雲の通ひ路 吹き閉ぢよ をとめの姿しばしとどめむ

有明 月子 031 朝ぼらけ有明の月と見るまでに 吉野の里に降れる白雪

生野 道子 060 大江山いく野の道の遠ければ まだふみも見ず天の橋立

笹原 いな子 058 有馬山猪名の笹原風吹けば いでそよ人を忘れやはする

關守 千鳥 078 淡路島通ふ千鳥の鳴く聲に 幾夜寝覚めぬ須磨の關守

龍田 神代 017 ちはやぶる神代も聞かず龍田川 唐紅に水くくるとは

初瀬 音羽子 074 うかりける人を初瀬の山おろしよ はげしかれとは祈らぬものを

久方 静子 033 久方の光のどけき春の日に しづ心なく花の散るらむ

松帆 浦子 097 来ぬ人を松帆の浦の夕風 に 焼くや藻塩の身もこがれつつ

和田 久子 076 わたの原漕ぎ出でて見ればひさかたの 雲居にまがふ沖つ白波

第9期生≪1919年(大正8年)入団17名≫

秋野 たま子 037 白露に風の吹きしく秋の野は 貫き止めぬ玉ぞ散りける

淡島 千鳥 078 淡路島通ふ千鳥の鳴く聲に 幾夜寝覚めぬ須磨の關守

泉 蘭子 027 みかの原わきて流るるいづみ川 いつ見きとてか恋しかるらむ

奥山 秋子 005 奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の 声聞く時ぞ秋は悲しき

小野 信夫 039 浅茅生の小野の篠原しのぶれど あまりてなどか人の恋しき

尾上 咲子 073 高砂の尾の上の桜咲きにけり 外山の霞立たずもあらなむ

- 桂 よし子 025 名にし負はば逢坂山のさねかづら 人に知られてくるよしもがな
 門田 芦子 071 夕されば門田の稲葉おとづれて 芦のまるやに秋風ぞ吹く
 小山 幸子 026 小倉山峰のもみぢ葉心あらば 今ひとたびのみゆき待たなむ
 高篠 濱子 072 音に聞く高師の浜のあだ波は かけじや袖の濡れもこそすれ
 巽 壽美子 008 我が庵は都の辰巳しかぞ住む 世をうち山と人はいふなり
 奈良 美也子 061 いにしへの奈良の都の八重桜 今日九重に匂ひぬるかな
 春野 若子 015 君がため春の野に出でて若菜摘む 我が衣手に雪は降りつつ
 松山 浪子 042 契りきなかたみに袖をしぼりつつ 末の松山波越さじとは
 松山 律子 042 契りきなかたみに袖をしぼりつつ 末の松山波越さじとは
 美山 小夜子 094 み吉野の山の秋風さ夜更けて ふるさと寒く衣打つなり
 山川 もみぢ 032 山川に風のかけたる柵は 流れもあへぬ紅葉なりけり

第10期生≪1920年(大正9年)入団21名≫

- 芦野 波江 088 難波江の芦のかりねのひとよゆゑ みをつくしてや恋ひわたるべき
 網代木 渡 064 朝ぼらけ宇治の川霧たえだえに あらはれ渡る瀬々の網代木
 嵐 雪子 096 花さそふ嵐の庭の雪ならで ふりゆくものは我が身なりけり
 稲葉 とし子 016 立ちわかれいなばの山の峰に生ふる まつとし聞かば今帰り来む
 沖津 浪子 076 わたの原漕ぎ出でて見れば久方の 雲居にまがふ沖つ白波
 音羽 瀧子 055 滝の音は絶えて久しくなりぬれど 名こそ流れてなほ聞こえけれ
 岸 小枝子 018 住の江の岸に寄る波よるさへや 夢の通ひ路人目よくらむ
 岸 浪子 018 住の江の岸に寄る波よるさへや 夢の通ひ路人目よくらむ
 滋賀 立子 041 恋すてふ我が名はまだき立ちにけり 人知れずこそ思ひ初めしか
 白菊 初子 029 心あてに折らばや折らむ初霜の 置きまどはせる白菊の花
 白妙 衣子 002 春過ぎて夏來にけらし白妙の 衣干すてふ天香具山
 住野 加代子 018 住の江の岸に寄る波よるさへや 夢の通ひ路人目よくらむ
 瀧野 久子 055 滝の音は絶えて久しくなりぬれど 名こそ流れてなほ聞こえけれ
 千早 多津子 017 ちはやぶる神代も聞かず龍田川 唐紅に水くくるとは
 原 幹子 027 みかの原わきて流るるいづみ川 いつ見きとてか恋しかるらむ
 富士野 高子 004 田子の浦にうち出でて見れば白妙の 富士の高嶺に雪は降りつつ
 槇野 のぼる 087 村雨の霧もまだ干ぬ真木の葉に 霧立ちのぼる秋の夕暮れ
 夢路 すみ子 018 住の江の岸に寄る波よるさへや 夢の通ひ路人目よくらむ
 若沼 月香 057 めぐり逢ひて見しやそれともわかぬ間に 雲隠れにし夜半の月かな
 渡瀬 しも子 006 かささぎの渡せる橋におく霜の 白きを見れば夜ぞ更けにける

第11期生≪1921年(大正10年)入団21名≫

- 岩打 民子 048 風をいたみ 岩打つ波のおのれのみ くだけて物を思ふ頃かな

- 伊吹 いぶき かくこ 子 051 かくとだにえやは伊吹のさしも草 さしも知らじな燃ゆる思ひを
 大山 おおやま いくこ 子 060 大江山いく野の道の遠ければ まだふみも見ずあまの橋立
 川霧 かわぎり あきこ 朝子 064 朝ぼらけ宇治の川霧たえだえに あらはれ渡る瀬々の網代木
 神田 かんだ ちこ 千代子 017 ちはやぶる神代も聞かず龍田川 唐紅に水くくるとは
 雲野 くもの かよこ 子 012 天つ風雲の通ひ路吹き閉ぢよ をとめの姿しばしとどめむ
 九重 ここのえ きようこ 京子 061 いにしへの奈良の都の 八重桜 今日九重に匂ひぬるかな
 小夜 よ ふくこ 福子 094 御吉野の山の秋風小夜更けて ふるさと寒く衣打つ也
 瀬尾 せお はやみ 077 瀬をはやみ岩にせかるる滝川の われても末に逢はむとぞ思ふ
 関守 せきもり すまきこ 須磨子 078 淡路島通ふ千鳥の鳴く聲に 幾夜寝覚めぬ須磨の關守
 高嶺 たかみね うらこ 浦子 004 田子の浦にうち出でて見れば白妙の 富士の高嶺に雪は降りつつ
 立山 たてやま たかねこ 峰子 016 立ちわかれいなばの山の峰に生ふる まつとし聞かば今帰り来む
 筑紫 つくし みほこ 美保子 088 難波江の芦のかりねのひとよゆゑ みをつくしてや恋ひわたるべき
 外山 かすみ あすみ 霞 073 高砂の尾の上の桜咲きにけり 外山の霞立たずもあらなむ
 浪速 なにわ つぐし 088 難波江の芦のかりねのひとよゆゑ みをつくしてや恋ひわたるべき
 橋立 はしだて ふみこ 美美子 060 大江山いく野の道の遠ければ まだふみも見ずあまの橋立
 浜野 はまの そでこ 袖子 072 音に聞く高師の浜のあだ波は かけじや袖の濡れもこそすれ
 久野 ひさの みつこ 光子 033 久方の光のどけき春の日に しづ心なく花の散るらむ
 三室 みむろ ようこ 葉子 069 嵐吹く三室の山のもみぢ葉は 竜田の川の錦なりけり
 村雨 むらきめ まきこ 子 087 村雨の霧もまだ干ぬ真木の葉に 霧立ちのぼる秋の夕暮れ
 山野 やまの みよこ 子 094 み吉野の山の秋風さ夜更けて ふるさと寒く衣打つなり

第12期生<1922年(大正11年)入団32名>

- 秋月 あきづき さえこ 子 023 月見ればちぢに物こそ悲しけれ 我が身一つの秋にはあらねど
 秋葉 あきば しげる 047 八重むぐらしげれる宿のさびしきに 人こそ見えね秋は來にけり
 泉 いづみ しかこ 子 027 みかの原わきて流るるいづみ川 いつ見きとてか恋しかるらむ
 上野 うえの きくらこ 櫻子 073 高砂の尾の上の桜咲きにけり 外山の霞立たずもあらなむ
 宇治 うじ いほり 008 我が庵は都の辰巳しかぞ住む 世をうち山と人はいふなり
 江岸 えがし みなこ 子 018 住の江の岸に寄る波よるさへや 夢の通ひ路人目よくらむ
 小川 おがわ そよこ 子 098 風そよぐならの小川の夕暮れは みそぎぞ夏のしるしなりける
 雄島 おじま やなこ 子 090 見せばやな雄島の海人の袖だにも 濡れにぞ濡れし色は変はらず
 片野 かたの おきこ 子 076 わたの原漕ぎ出でて見れば久方の 雲居にまがふ沖つ白波
 嶋 しま やそこ 八十子 011 わたの原八十島かけて漕ぎ出でぬと 人には告げよ海人の釣船
 白露 しらつゆ とめこ 子 037 白露に風の吹きしく秋の野は 貫き止めぬ玉ぞ散りける
 須磨 すま いくこ 幾代 078 淡路島通ふ千鳥の鳴く聲に 幾夜寝覚めぬ須磨の關守
 關 せき ようこ 洋子 062 夜をこめて鳥の空音ははかるとも よに逢坂の關は許さじ

- たかなみ きよとこ 高浪 喜代子 072 音に聞く高師の浜のあだ波は かけじや袖の濡れもこそすれ
 ちあき ゆうこ 千秋 夕子 023 月見ればちぢに物こそ悲しけれ 我が身一つの秋にはあらねど
 つなで なぎさ 綱手 渚 093 世の中は常にもがもな渚漕ぐ 海人の小舟の綱手かなしも
 ながつき まちこ 長月 町子 021 今来むといひしばかりに長月の 有明の月を待ち出でつるかな
 なごよ なほこ 勿来 なほ子 055 滝の音は絶えて久しくなりぬれど 名こそ流れてなほ聞こえけれ
 なつき ちようこ 夏木 てふ子 002 春過ぎて夏來にけらし白妙の 衣干すてふ天の香具山
 はせ うかり 長谷 うかり 074 うかりける人を初瀬の山おろしよ はげしかれとは祈らぬものを
 はたの はるこ 花野 春子 009 花の色は移りにけりないたづらに 我が身世にふるながめせし間に
 しょうの ともこ 松野 友子 034 誰をかも知る人にせむ高砂の 松も昔の友ならなくに
 みかき えつこ 御垣 悦子 049 みかき守衛士のたく火の夜は燃え 昼は消えつつ物をこそ思へ
 みかの いづみ 美香野 いづみ 027 みかの原わきて流るるいづみ川 いつ見きとてか恋しかるらむ
 みなの じゅんこ 美名野 潤子 013 筑波嶺の峰より落つる男女川 恋ぞつもりて淵となりぬる
 みはらい なつこ 御祓 夏子 098 風そよぐならの小川の夕暮れは みそぎぞ夏のしるしなりける
 みやこ やち 都 八重 061 いにしへの奈良の都の八重桜 今日九重に匂ひぬるかな
 みよしの あきこ 三好野 秋子 094 み吉野の山の秋風さ夜更けて ふるさと寒く衣打つなり
 むつ ちづこ 陸奥 千鶴子 014 陸奥のしのぶもぢずり誰ゆゑに 乱れそめにし我ならなくに
 ちみじの にしき 紅葉野 錦 024 このたびは幣も取りあへず手向山 紅葉の錦神のまにまに
 ゆうなぎ たもつ 夕凧 保 097 来ぬ人を松帆の浦の夕凧に 焼くや藻塩の身もこがれつつ
 よしの きとこ 芳野 里子 031 朝ぼらけ有明の月と見るまでに 吉野の里に降れる白雪

多く採用されている歌は下記の通りである。

18 番 6 名

住の江の岸に寄る波よるさへや 夢の通ひ路人目よくらむ【藤原敏行朝臣】

78 番 5 名

淡路島通ふ千鳥の鳴く聲に 幾夜寝覚めぬ須磨の關守【源兼昌】

94 番 5 名

み吉野の山の秋風さ夜更けてふるさと寒く衣打つなり【参議雅経】

04 番 4 名

田子の浦にうち出でて見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ【山部赤人】

27 番 4 名

みかの原わきて流るるいづみ川 いつ見きとてか恋しかるらむ【中納言兼輔】

60 番 4 名

大江山いく野の道の遠ければ まだふみも見ず天の橋立【小式部内侍】

61 番 4 名

いにしへの奈良の都の八重桜 今日九重に匂ひぬるかな【伊勢大輔】

72番 4名

音に聞く高師の浜のあだ波は かけじや袖の濡れもこそすれ【祐子内親王家紀伊】

73番 4名

高砂の尾の上の桜咲きにけり 外山の霞立たずもあらなむ【権中納言匡房】

76番 4名

わたの原漕ぎ出でて見れば久方の 雲居にまがふ沖つ白波【藤原忠通】

97番 4名

来ぬ人を松帆の浦の夕風に 焼くや藻塩の身もこがれつつ【権中納言定家】

反対に使われていない歌は

3、19、20、22、28、30、35、36、38、40、43、44、45、50、52、53、54、56、59、
63、65、66、67、68、70、75、79、80、81、82、83、84、85、86、89、91、95、99、
100

であった。結構使われなかった歌が多いのに驚いた。芸名に使われた歌と使われなかった歌との違いを考えてみたが、残念ながら判明しなかった。

4. 芸名の推移

前述の通り初期は百人一首から採られた芸名が多かったが、流石に限界があり昭和からはかなり広範囲から選ばれるようになった。世の中では1990年代半ばから「キラキラネーム」が広がり始めたが、その波は宝塚歌劇団にも影響している。2007年（平成19年）入団の第93期生から今年2021年（令和3年）入団の第107期生までの15年間に入団した604名の芸名を列記する。敢えて仮名は振らないようにした。

第93期生≪2007年（平成19年）入団50名≫

愛白 もあ・愛月 ひかる・亜聖 樹・彩風 咲奈・桜咲 彩花・鳳姿 有羽・風海 恵斗・
輝城 みつる・紗那 ゆずは・桜帆 ゆかり・彩歌 しおん・翔我 つばさ・鈴蘭 まあや・
瀬音 リサ・芹香 斗亜・空乃 みゆ・蒼羽 りく・大河 凜・珠華 ゆふ・千瀬 聖・
都月 みあ・十碧 れいや・凧咲 星南・夏樹 れい・菜那 くらら・七瀬 りりこ・
花陽 みら・華吹 乃愛・花奈 滯・鳳龍 あや・帆風 成海・星輝 つばさ・星那 由貴・
星吹 彩翔・舞園 るり・舞羽 美海・舞遠 きあら・真輝 いづみ・真凜 カンナ・
水瀬 千秋・美宙 果恋・美花 梨乃・結乃 かなり・雪乃 心美・夢妃 杏瑠・
夢城 えれん・夢涼 りあん・凜華 もえ・琉動 真瑛・航琉 ひびき

第94期生≪2008年（平成20年）入団44名≫

愛風 ゆめ・愛咲 まりあ・朝陽 みらい・天翔 りいら・天舞音 さら・杏野 このみ・
華雅 りりか・輝海 せいや・和海 しょう・煌羽 レオ・煌海 ルイセ・久城 あす・香咲 蘭・
早乙女 わかば・冴華 りおな・咲花 莉帆・桜音 れい・漣 レイラ・紗愛 せいら・
紫乃加 りあ・翔馬 樹音・寿春 花果・仙名 彩世・大樹 りょう・貴穂 しゅう・
珠城 りょう・新菜 かほ・花咲 あいり・隼海 惺・羽立 光来・春瀬 央季・
ひなたの 花梨・飛河 蘭・風馬 翔・星月 梨旺・舞月 なぎさ・麻央侑 希・毬愛 まゆ・

美泉 儷・美月 悠・芽華 らら・悠斗 イリヤ・夢羽 美友・夢花 らん

第95期生≪2009年(平成21年)入団45名≫

愛 すみれ・愛羽 ふぶき・朝央 れん・朝美 絢・天月 翼・彩花 まり・桜路 薫・
鳳津 りさ・逢月 あかり・楓 ゆき・和城 るな・輝月 ゆうま・こと華 千乃・
桜木 みなと・早桃 さつき・白峰 ゆり・涼華 まや・瀬央 ゆりあ・月城 かなと・
七生 眞希・花瑛 ちほ・晴音 アキ・妃桜 ほのり・妃海 風・ひろ香 祐・星乃 あんり・
真衣 ひなの・愛希 れいか・真鳳 つぐみ・真みや 涼子・実咲 凜音・美里 夢乃・
水美 舞斗・美蘭 レンナ・実玲 淳・紫 りら・萌吹 まほろ・優 ひかる・留美 絢・
礼 真琴・麗奈 ゆう・伶美 うらら・蓮珠 こうき・雪華 さくら・柚香 光

第96期生≪2010年(平成22年)入団38名≫

蒼井 美樹・茜 小夏・秋音 光・朝月 希和・朝水 りょう・鳳 いぶき・桜舞 しおん・
音咲 いつき・乙羽 映見・和希 そら・花乃 まりあ・叶羽 時・華蓮 エミリ・
綺咲 愛里・五條 まりな・咲妃 みゆ・桜奈 あい・更紗 那知・紫藤 りゅう・
白鳥 ゆりや・瀬戸花 まり・蒼矢 朋季・空波 輝・貴姿 りょう・拓斗 れい・橘 幸・
千幸 あき・颯希 有翔・春海 ゆう・妃華 ゆきの・真地 佑果・美桜 エリナ・
夢月 せら・優波 慧・夢華 あみ・夢奈 瑠音・蘭舞 ゆう・里咲 しぐれ

第97期生≪2011年(平成23年)入団34名≫

蒼瀬 侑季・碧宮 るか・秋奈 るい・朝霧 真・朝日奈 蒼・綺城 ひか理・彩葉 玲央・
海乃 美月・鳳羽 みらい・佳城 葵・華鳥 礼良・叶 ゆうり・紅羽 眞希・彩月 つくし・
沙羅 アンナ・澤 佳津伎・城妃 美伶・貴遠 すず・桃堂 純・永久輝 せあ・花菱 りず・
春妃 うらら・雛 リリカ・姫咲 美礼・ひめ乃 礼絵・舞矢 聖華・水香 依千・
水沙 瑠流・水月 牧・矢吹 世奈・夢 なつき・夢人 麻未・留依 蒔世・蓮 つかさ

第98期生≪2012年(平成24年)入団40名≫

暁 千星・天希 ほまれ・天華 えま・綾 鳳華・彩波 けいと・有沙 瞳・麗 泉里・
桜花 りな・音風 せいや・風輝 駿・叶海 世奈・清華 蘭・小春乃 さよ・紫咲樹 れの・
潤奈 すばる・真條 まから・周旺 真広・澄月 菜音・星南 のぞみ・瀬南海 はや・
蒼真 せれん・尚央海 りせ・七輝 かおる・華雪 りら・遙羽 らら・妃月 ゆめ・
飛龍 つかさ・鳳華 はるな・穂稀 せり・真彩 希帆・茉玲 さや那・美丘 安里・
滯乃 桜季・美都 くらら・湊 璃飛・峰果 とわ・夕渚 りょう・紫乃 小雪・夢乃花 舞・
瑠風 輝

第99期生≪2013年(平成25年)入団37名≫

朝陽 つばさ・天路 そら・天瀬 はつひ・天乃 きよら・亜蓮 冬馬・彩 みちる・
桜里 まお・輝生 かなで・希峰 かなた・小桜 ほのか・咲翔 みなき・桜良 花嵐・
澄風 なぎ・諏訪 さき・蒼舞 咲歩・高峰 潤・月華 雪乃・七星 美妃・野々花 ひまり・
華妃 まいあ・英 かおと・隼 玲央・遙斗 勇帆・春矢 祐璃・ひいな 凜・陽海 ありさ・
陽向 春輝・姫歌 ひな乃・帆純 まひろ・舞雛 かのん・万名月 洗・瑞希 めい・

美園 さくら・璃央 じゅん・凜乃 しづか・若草 萌香・若翔 りつ

第100期生≪2014年(平成26年)入団39名≫

碧月 れん・朱紫 令真・天彩 峰里・新 斗希矢・泉 まいら・一之瀬 航季・糸月 雪羽・音 くり寿・風間 柚乃・和 礼彩・奏音 雅・希沙 薫・希良々 うみ・きらり 杏・極美 慎・煌 えりせ・琥南 まこと・桜庭 舞・汐聖 風美・星加 梨杏・聖乃 あすか・空城 ゆう・夏風 季々・二條 華・羽織 夕夏・蓮月 りらん・華 優希・はる香 心・妃純 凜・星風 まどか・舞希 翼・舞華 みりあ・愛海 ひかる・真ノ宮 るい・桃歌 雪・優希 しおん・雪乃 かさり・ゆめ 真音・蘭 尚樹

第101期生≪2015年(平成27年)入団40名≫

青羽 ひかり・碧梅 さりお・縣 千・麻倉 しずく・朝澄 希・麻斗 海伶・天翔 さくら・天紫 珠李・彩音 星凧・彩園 ひな・惟吹 優羽・草薙 稀月・甲海 夏帆・琴羽 りり・湖々 さくら・咲乃 深音・鷺世 燿・颯香 凜・星蘭 ひとみ・雪輝 れんや・芹尚 英・鷹翔 千空・龍季 滢・翼 杏寿・夏葉 ことり・花城 さあや・花時 舞香・日和 春磨・真名瀬 みら・愛乃 一真・美華 もなみ・水音 志保・望月 篤乃・結愛 かれん・夕陽 真輝・優美 せりな・佳乃 百合香・涼香 希南・凜香 百音・礼華 はる

第102期生≪2016年(平成28年)入団39名≫

天飛 華音・天愛 るりあ・彩海 せら・有栖 妃華・一禾 あお・一星 慧・凰海 るの・桜月 のあ・大楠 てら・輝 ゆう・風色 日向・紅咲 梨乃・湖風 珀・琥白 れいら・咲城 けい・潤 花・涼花 美雨・鈴美 椰 なつ紀・澄華 あまね・奏碧 タケル・太風 旬・南音 あきら・菜々野 あり・花宮 沙羅・春乃 さくら・柊木 絢斗・陽雪 アリス・鳳真 斗愛・舞空 瞳・真友月 れあ・摩耶 裕・稀羽 りんと・三空 凜花・水乃 ゆり・都 優奈・侑輝 大弥・夢風 咲也花・蘭世 惠翔・理央 ひかる

第103期生≪2017年(平成29年)入団40名≫

碧咲 伊織・朝葉 ことの・亜音 有星・天咲 礼愛・あまの 輝耶・彩路 ゆりか・彩妃 花・有愛 きい・瑛美花 れな・音佳 りま・海叶 あさひ・葉菜 ひまり・希波 らいと・孔雅 といろ・琴美 くらら・紗蘭 令愛・詩希 すみれ・白河 りり・聖海 由侑・爽 悠季・壮海 はるま・大河 そあ・なつ 颯都・羽音 みか・花束 ゆめ・颯美 汐紗・羽玲 有華・絃希 柚葉・二葉 ゆゆ・星 咲希・愛羽 あやね・まのあ 滢・毬矢 ソナタ・夢白 あや・侑蘭 粋・莉奈 くるみ・涼葉 まれ・瑠皇 りあ・琉稀 みうさ・瑠璃 花夏

第104期生≪2018年(平成30年)入団40名≫

愛蘭 みこ・青騎 司・碧音斗和・蒼波 黎也・朝木 陽彩・麻花 すわん・梓 唯央・天城 れいん・絢斗 しおん・綾音 美蘭・嵐之 真・一羽 萌瑠・きよら 羽龍・咲彩 いちご・世晴 あさ・千早 真央・月乃 だい亜・椿 ここ・透綺 らいあ・夏凧 せいあ・菜乃葉 みと・珀斗 星来・陽彩 風華・光莉 あん・風雅 奏・楓姫 るる・舞 ころこ・麻丘 乃愛・真白 悠希・真弘 蓮・愛彩 めあり・愛陽 みち・美海 そら・美里 玲菜・御剣 海・美羽 愛・都姫 ここ・凜央捺 はる・礼哉 りおん・和奏 樹

第105期生≪2019年(平成31年)入団40名≫

愛空 みなみ・愛未 サラ・葵 祐稀・青風 希央・明希翔 せい・朝香 ゆらら・
彩夏 こいき・詩 ちづる・鳳花 るりな・大路 りせ・奏羽 美緒・稀惺 かずと・
紀城 ゆりや・希翠 那音・琴峰 紗あら・湖華 詩・彩紋 ねお・静音 ほたる・泉堂 成・
大希 颯・月瀬 陽・夏希 真斗・七城 雅・音彩 唯・初音 夢・花翔 ひかり・遙稀 れお・
聖 叶亜・瞳 きらり・星影 なな・星空 美咲・楨 照斗・稀奈 ゆい・美影 くらら・
海咲 圭・水城 あおい・美星 帆那・美空 真瑠・山吹 ひばり・伶愛輝 みら

第106期生≪2020年(令和2年)入団39名≫

愛花 いと・朝稀 さいら・天音 ことは・彩名 美希・綺乃 ゆず・郁 いらや・一乃 凜・
宇咲 瞬・鳳陽 さや華・大瀬 いぶき・乙華 菜乃・鏡 星珠・風羽 咲季・和真 あさ乃・
華純 沙那・華世 京・夏南 幸・樹澄 せいや・霧乃 あさと・慧那 まや・湖春 ひめ花・
咲園 りさ・涼宮 蘭奈・月翔 きら・渚 ゆり・波輝 瑛斗・葉咲 うらら・花咲 美玖・
花妃 舞音・飛翠 真凜・藤影 ゆら・鳳城 のあん・真澄 ゆかり・澪 あゆと・
美遥 あゆ・夢翔 みわ・夢陽 まり・蘭叶 みり・遼 美来

第107期生≪2021年(令和3年)入団39名≫

愛柳 ちとせ・藍羽 ひより・相星 旬・碧羽 陽・朱 涼・朝雪 薫・天つ風 朱李・
絢月 晴斗・一輝 翔琉・詩花 すず・乙瀬 千晴・織史 青・風翔 夕・和波 煌・
風立 にき・華波 侑希・希蘭 るね・小乃美 ゆき・咲良 さき・静乃 めぐみ・白綺 華・
澄乃 紬・世奈 未蘭・瀬七波 いろ・瞳月 りく・桃李 拍・常和 紅葉・奈央 麗斗・
七彩 はづき・華乃 みゆ・華羽 りみ・雛乃 にこ・妃奈 環・澪花 えりさ・
瑞季 せれな・美颯 りひと・美玲 ひな・結花 のの・結沙 かのん

芸名の全部または一部にひらがなが使われている名前は316名、カタカナは16名で全体の58.8%を占めている。ひらがなとカタカナが多く使われているにも関わらず難読で、正確に読めたのは10名程度である。

人気のある漢字は、姓では「美」31、「華」31、「花」29、「乃」28、「月」28、「咲」27、「彩」27、「羽」25、「愛」23、「海」21、「風」21であった。名前では「美」16、「真」14、「希」14、「斗」12、「音」10、「乃」10、「花」10、「華」8、「愛」7であった。

大正時代入団の第1期生から第16期生298名についても同じように調べてみた。ひらがなは82名(カタカナ0名)が採用、全体の27.5%であった。姓では「野」30、「山」20、「小」12、「松」12、「高」11、「三」11、名では圧倒的に「子」が多く、78.5%に相当する234名に使われていた。

2007年から2021年の間に入団した604名のなかで「子」が使われているのは2009年(平成21年)4月入団第95期生の「真みや 涼子」の一人だけであった。明治安田生命のウェブサイト年代別の名前ランキングデータ(女子)を見ると、「子」は1912年(大正元年)から1985年(昭和60年)までの73年間ベスト10入りしていたが、1986年(昭和61

年) にベスト 10 から消えている。

同サイトによると大正時代のトップ 10 にある名前は文子、静子、君子、久子、幸子、千代子、光子、八重子で、当時の芸名に全て存在する。2016 年から 2020 年までの五年間で毎年人気ベスト 25 入りしている漢字は、「花」「菜」「愛」「奈」「結」「莉」「乃」「美」「心」「咲」「陽」「音」「彩」「希」「桜」「月」「子」「華」「紗」「香」の 20 字で、「結」「心」「子」以外は同時期入団 198 名の芸名に使われている。宝塚歌劇の芸名は大正時代から現在まで世の中の流れが大きく影響していることが分かった。

しかし、難読芸名はいかがなものか。関係の深い阪急電鉄の駅名で芸名を考えてみた。中津 十三子、三国 庄子、豊中 蛭、川西 雲雀、石橋 桜、小林 仁子、春日野 道子、岡本 御影、吹田 千里、伊丹 稲、烏丸 桂。昭和に戻った感があるが、落ち着きを感じるのは筆者だけであろうか。

5. まとめ

宝塚歌劇について調べてきたが、百年以上続く女性だけの舞台は本当に華やかである。数々の苦難を乗り越えてきた自信の裏付けがあるのであろう。コロナ禍、定期的に PCR 検査を受けながら稽古に励むタカラジェンヌの努力に敬服する。また、終演後大劇場を出て「花のみち」を興奮冷めやらぬ表情で歩くファンの姿も壮観である。昨今のコロナ感染を乗り越えて更なる百年の歴史を作り出してほしいものだ。コロナで沈む世の中に元気を与える演目にもトライしてもらいたい。

そこでペスト菌の発見、破傷風の治療法の開発など、感染症医学の発展に貢献し、2024 年に予定されている新千円札の肖像画に選出されている北里柴三郎を主人公にした歌劇はできないだろうかと考えた。1853 年（嘉永 5 年）に熊本で生まれた北里は大の医者嫌いで軍人になることを夢見ていたが、親の意見で医者を目指すことになり、東京医学校（現・東京大学医学部）に進む。30 歳で松尾帛（まつおとら）と結婚。6 人の子供に恵まれる。1885 年（明治 18 年）32 歳でドイツのベルリン大学に留学し、「近代細菌学の開祖」コッホに師事する。1889 年に破傷風菌の純粋培養に成功、1892 年に日本に戻り福澤諭吉らの援助を受け設立された「伝染病研究所」の所長となり、1894 年にペスト菌を発見する。その時に「これだ、ついに発見したぞ、ペスト菌だ！」と叫んだという。1920 年には慶應義塾大学部医学科の創立に尽力し、同大学医学部病院の院長となり、1923 年（大正 12 年）に日本医師会を創設する。まさに日本医学の父である。北里を学祖とする 1962 年（昭和 37 年）創設の北里大学の建学の精神は「開拓」「報恩」「叡智と実践」「不撓不屈」だ。コロナとの闘いに通じる。昨年のレポートの最後にもコロナに関して触れた。まさか今年もコロナを話題にするとは思わなかった。昨年と同様次の俳句でこのレポートを締めくくる。

春風や闘志抱きて丘に立つ 高濱 虚子

無印良品とユニクロの商品説明

三 好 由 希 子

1. 調査の動機と目的

ユニクロの折込みチラシを見ていて、商品説明のことばが今どきふうで、身近な感じがするように思った。毎週届くチラシには、印象に残ることばがちりばめられ、気軽な感じで商品説明がされている。買ったらか何か良さそうな感じがしてしまう。そのような感じはどこからくるものなのか。商品説明のどのようなことばがそう思わせるのかについて、調べてみたいと思った。

しかし、商品説明のことばについてユニクロだけを調べても、どのようなことばがユニクロらしい印象を与えているのかを知るのは難しそうである。そこで、チラシは無いが、ユニクロと同じようにショッピングモールによくある、少し真面目そうで何か良さそうな感じのする無印良品の商品説明のことばと比較することで、両社それぞれの特徴的な表現法の違いがわかるのではないかと考えた。

つまり、このレポートでは、2社の対照的な印象と、商品説明に使われていることばがどのように関連しているかを明らかにしたい。

2. 調査方法の概要

調査対象に取り上げる商品説明は、無印良品とユニクロの Web サイトの特集ページを利用することにした。比較がしやすいように、両社のアイテム3種類(ダウン、夏のインナー、冬のインナー)の商品の説明文を取り上げる。

両社の3アイテムの商品説明に使われている文章を対象に、まず、2つの視点から分析する。1つは、3アイテムそれぞれに使われている語彙について、両社でどのような違いがあるのかを調査する。語彙調査による分析である。もう1つは、両社の文章表現について具体的な例文を読み解くことによる分析を行った。そして、3つめの視点として、両社の説明文の形式上での特徴が感じられたので、3アイテムをまとめて、文の長さや文末形式に着目して調査した。

3. 両社の3アイテムごとの比較

3. 1 ダウンの説明文

(1) 語彙調査から

ダウンの説明文に関する語彙調査の結果、無印良品、ユニクロそれぞれの上位の語は次のようになった。ただし、接辞は省いている。なお、()内の数字は出現度数。出現度数1

は省略している。

◆無印良品

ダウン、する (7) いる (5) あたたかい (4) パワー、フィル、ポケット
ブル、仕様、ふくらみ、無印良品 (3) 軽い、原材料、使う、自然、人、なる、選
択、大きい、ある (2)

◆ユニクロ

ダウン (7) する (5) 軽い、自由 (4) あたたかい、なる (3) ウルト
ラライトダウン、コンパクト、快適、寒い、襟、好き、使いかた、思い、持ち歩く、重
ね着、できる、折る、日常、入れる、まま、撥水 (2)

両社に共通して出現している語は「ダウン・する・あたたかい・軽い」である。「ダウン」「する」がよく使われるのは当然なので、「あたたかくて軽い」が共通するキーワードということになる。その他、無印良品の「ポケットブル」とユニクロの「コンパクト」も意味の上では共通性がある。ダウンを小さくできて持ち運びに便利なことも重要なポイントだと主張していると思われる。

他方、異なっている点に目を向けると、無印良品は「仕様・素材・原材料」など製品に関する語が見られ、ユニクロは「自由・好き・楽しむ・快適」など使う人間の感覚に関する語が見られた。

無印良品もユニクロも、ダウンの特長について述べている点は共通している。そして、無印良品は自社の製品の良さを中心に述べている説明になっている。それに対して、ユニクロはその製品を身にまとったときの気分、気持ちのよさを中心に据えているということが言えそうだ。

(2) 文章表現から

無印良品では、次のような説明が見られた。

* ポケットブル仕様で小さくなり、持ち運びに便利です。

* ダウンの膨らみをあらかず単位、「フィルパワー」。

この値が大きければ大きいほど、保温性にすぐれ、あたたかく良質なダウンになります。無印良品が採用したのは、750 フィルパワーのオーストラリア産ダウン。

熱を衣類に閉じ込め、軽さとあたたかさを兼ね備えたダウンです。

* ふくらみの良いダウンを使っているため、ポケットから取り出せばすぐに元のボリューム感がよみがえります。

これらは、無印良品が製品に対して工夫したことを述べたり、その製品の良さを「すぐれる」「良質な」「良い」と褒めたりしていることを示している。また、

* 自然としっかり向き合っって原材料を選びました。

無印良品では、地球や動植物、生産者に配慮した方法で採取された素材を選択するよう取り組んでいます。

機能性だけでなく、使う人、つくる人、そして自然に対する向き合い方を考えて、原

材料を選択しています。

という説明もあった。これは、「地球」「動植物」「生産者」「自然」に対する向き合い方などの無印良品の地道な取り組みについての説明だと言えよう。

他方、ユニクロでは、次のような説明がされていた。

*好きなときに、好きなスタイルで使える、ウルトラライトダウン。

ダウンの使いかたは、ここまで自由になりました。

着たり、脱いだり、持ち歩いたり。

思いのままに寒さを調節しながら、思いのままに毎日を楽しんで。

ウルトラライトダウンで、暮らしの快適さは、もっと自由になる。

ここでは、製品の使い方次第で、暮らしの快適さが自由になることを述べている。他にも、次のような説明があった。

*アウターにもインナーにも着用できて着回し自由

*襟を折って、見せないダウン。

襟を折ってVネックにすればコートやジャケットの下にも重ね着できる

*部屋着にも、ちょうどいいダウン。

軽いのにしっかり暖かいから動きやすく、お家の中でも活躍

これは、ユニクロが日常のシーンを想定して、製品がどんなシーンにも着回しできて、便利であることを強調していると言えよう。

3. 2 夏のインナーの説明文

(1) 語彙調査から

ダウンの場合と同様に、夏のインナーの説明文に関する語彙調査の結果を示すと、次のようになる。

◆無印良品

する (5) コットン、こと、素材、綿 (わた)、優しい (4) オーガニック、タグ、肌 (3) おさえる、いる、つくる、自然、すぐれる (2)

◆ユニクロ

する (7) 放出 (3) テクノロジー、衣服内、快適、汗、吸収、吸放湿、呼吸、湿気、生み出す、通気、熱気 (2)

両者に共通して出現している語は「する」だけである。「する」はどのような文章にも使われるものなので、共通して出現している実質的な語は無いことになる。逆に言えば、両者の説明文章が対照的であると言える。

そうした目で見ると、無印良品は「コットン、綿 (わた)、素材」と素材について「オーガニック、自然」であることを強調していると思われる。それに対して、ユニクロは、「放出、衣服内、快適、汗、吸収、吸放湿、呼吸、湿気、通気、熱気」という語の使用から、通気性をよくして熱気を放出して快適になることを中心に述べているようだ。つまり、無印良

品が製品の素材のすばらしさを中心に述べているのに対して、ユニクロは製品を使ったときの快適さに目を向けていると言えよう。

ダウンの場合と同様、無印良品は自社の製品のよさを中心に述べているのに対して、ユニクロはその製品を身にまとったときの快適さを中心に述べているとも言える。

(2) 文章表現から

無印用品では、次のような説明が見られた。

*綿は、吸湿性が高く通気性にすぐれている自然素材です。

糸の撚り方を工夫することによって、通常の綿よりもさらにこの機能を強化し、吸水性と速乾性にすぐれたインナーをつくりました。

無印良品にとって重要な「すぐれている自然素材」の綿で「吸水性と速乾性にすぐれたインナーを作りました」と、製品の良さを褒めていることを示している。また、

*20年以上にわたり、オーガニックコットンの割合を増やす取り組みを続け、2018年より衣料品のすべての綿がオーガニックコットンになりました。

という説明は、無印良品の地道な取り組みについての説明だと言える。さらに、

*やさしい着ごちを求め、脇の縫い目をなくすことでごろつきを抑えました。

洗濯表示のタグがチクチクしないように、こどもはタグを外側に、大人はタグを使わずに転写プリントにしています。

これも、無印良品らしさの感じられる説明である。製品を使う際に生じていた不快を無くすよう工夫したことについて述べている。

他方、ユニクロでは次のような説明があった。

*湿気や熱気を放出し、抜群の通気性で汗を速乾。

一枚着るだけで、サラサラな肌ざわりが心地いい。

*まるで呼吸するように衣服内の環境を自ら調整して、なめらかな着心地が一日中続きます。

これらでは、「抜群の通気性」「サラサラな肌ざわり」「なめらかな着心地」といった言葉が効果的に使われている。ユニクロの夏インナーを選ぶことで夏の衣服内のジメジメを解決し、さらに爽やかさを感じられることを想像させる。また、次のように、

風合い

吸放湿性

ドライ

接触冷感

ストレッチ

抗菌防臭

消臭

通気性

製品の機能性についての単語をひたすら並べている。機能性に対する自信と切れの良さを

感じさせる。製品が夏を快適にしてくれると思わせる説明である。

3. 3 冬のインナーの説明文

(1) 語彙調査から

これまでと同じく、冬のインナーの説明文に関する語彙調査の結果を示すと、次のようになる。

◆無印良品

する (10) 素材、綿 (わた) (5) 肌、優しい (4) オーガニック、コットン、タグ、抑える、発熱 (3) 化学、乾燥、吸収、こと、静電気、繊維、比べる (2)

◆ユニクロ

ヒートテック (7) する (6) 暖かい、熱 (4) 体、発する (3) あなた、水蒸気、通常、冬、薄い (2)

夏のインナーと同様、「する」以外、両者に共通する語は無い。異なっている点に注目すれば、無印良品は「綿、オーガニック、コットン」などの「素材」「繊維」について、「肌」に「優しい」と述べているようだ。それに対して、ユニクロは製品名「ヒートテック」とともに「あたたかさ」を中心に述べている。

無印良品は、ダウン、夏のインナーと同様、やはり製品の良さを中心に述べている。他方、ユニクロは、これまでの着心地ではなく、製品を中心にそのあたたかさを強調していると言えよう。

(2) 文章表現から

無印良品では、次のような説明が見られた。

*綿は、湿気を吸収して発熱する、天然の機能性素材です。

この力を高める特殊な加工によって、化学繊維を使用した一般的な発熱インナーと比べて、発熱温度が 25%上昇しました。

無印良品は冬も「綿」「ウール」など天然繊維に関する言葉を使っている。また、一般的な「化学繊維」の発熱インナーとは違うとも述べている。

*静電気をおさえる

綿は帯電しにくい素材のため、ウールのニットなどを重ね着しても静電気が起きにくいです。

*肌の乾燥をおさえる

化学繊維の素材と比べて、肌の油分を過剰に吸収することのない綿は、乾燥しがちな冬の肌にやさしい素材です。

この説明は、「化学繊維」ならではの悩みである「静電気」「肌の乾燥」を「おさえる」と言っており、「冬の肌にやさしい」とアピールしている。また、夏のインナーと似ているが、

*肌あたりをやさしく

やさしい着ごちを求め、脇の縫い目をなくすことでごろつきを抑えました。

洗濯表示のタグがチクチクしないように、こどもはタグを外側に、大人はタグを使わずに転写プリントにしています。

と、「やさしさ」をさらに強調し、製品の良さを述べている。さらに、

*20年以上にわたり、オーガニックコットンの割合を増やす取り組みを続け、2018年より衣料品のすべての綿がオーガニックコットンになりました。

のように、夏のインナーと同じく、無印良品の地道な取り組みについても説明している。

他方、ユニクロでは、次のような説明が見られた。

*ヒートテックは、あなたの身体で熱を生む。

”自家発熱する素材”でできたヒートテックは、薄いのにずっと暖かい。

身体から発する水蒸気を熱に換えるテクノロジーが、あなたの冬をいつでも心地良くします。

*空気を取り込み保温するマイクロアクリルエアポケットを網目状に構成

ここには、印象的な外来語が見られる。「ヒートテック」と言えば冬の必需品であり、「マイクロアクリルエアポケット」は意味がよく分からないが、何かテクノロジーで暖かそうと思わせる言葉である。そして、「あなた」という2人称を使うことで、消費者の関心を引き込んでいる。

さらに、次のような表現が見られる。

*ヒートテック

薄くて暖かい。

着ぶくれすることなく着こなせる。

冬の日常着に

*極暖ヒートテック

”裏起毛”で、通常のヒートテックの約1.5倍暖かい。

特に寒い日に

*超極暖ヒートテック

通常の2.25倍、全ヒートテック史上もっとも暖かい。

極寒の時に

ここでは、「冬の日常着に」「特に寒い日に」「極寒の時に」など寒さの段階に応じて、「ヒートテック」「極暖ヒートテック」「超極暖ヒートテック」と商品を使い分け、毎日ヒートテックを着れば冬を快適に過ごせると説明している。

4. 文の特徴の比較（無印良品 VS.ユニクロ）

4.1 文の長さ

ここからは、説明文の表現形式の特徴を比較する。まず文の長さを比較しよう。そのために、1文あたりの文字数を調べた。その結果は、無印良品が31.3、ユニクロが15.8であった。無印良品はユニクロのほぼ2倍の長さであった。

無印良品の広告宣伝については、テレビCM、折り込みチラシがない。そのため。会社の取り組みや製品情報を理解してもらうには、丁寧に説明しないとイケない。こだわりの詰まったすぐれた商品の良さを伝え、自社の取り組みを理解したうえで商品を選んでほしいという気持ちを伝えようとすれば、文は長くならざるを得ないだろう。つまり、商品説明の機会の少なさが商品説明の言葉数の多さにつながり、その結果として1文が長くなっているのだと考えられる。

反対に、ユニクロはWebサイト、テレビCM、折込チラシなどたくさんの情報源があり、短く伝えて印象に残る、耳に残るフレーズの長さを志向しているのではないか。その結果として1文が短いのだと考えられる。

4. 2 文末形式

次に、説明文の文末形式を見てみる。結果は次のようになった。

	無印良品	ユニクロ
ですます・である	33 (78.6)	17 (34.0)
言いさし	2 (4.8)	10 (20.0)
体言止め	7 (16.7)	21 (42.0)
その他	—	2 (4.0)
計	42	50

() 内は%

無印良品では、ごく普通の文末形式が8割近くを占め、やはり、丁寧に説明している印象がある。それに対して、ユニクロは言いさしが2割、体言止めが約4割で、2つを合わせると約62パーセントとなる。この多さが、口語的で軽快な印象を与えていると考えられる。

無印良品にとって大切な自然素材である綿の説明、ダウンの膨らみを表す単位の説明、無印良品の取り組みの説明、これらを詳しく長い文で述べているから説明的な表現になる。そして、文末には、ですます体が多く使われており、そのことで、真面目な印象を与えるのに成功していると言えよう。

他方、ユニクロはテレビCMや折り込みチラシでは「心に刺さる」フレーズ、耳に残るフレーズが必要になるから、文の長さが短く、文末は言いさし・体言止めを用いており、そのため、人が話しかけているような感じで、感覚的な表現になっている。

5. まとめ

以上、無印良品では素材や工夫したことなど製品に関する語が多かった。また、商品説明の最後には無印良品の自然に対する向き合い方や取り組みが述べられていた。さらに、その述べ方は、「ですます体」の長い文で丁寧に述べるという特徴が見られた。このことから、

無印良品は、素材や原材料、自社の工夫など製品を中心に、論理に訴える商品説明をしていると言えよう。

他方、ユニクロは、暮らしの快適さを求めて着方の提案をするなど、製品よりも使う人間側についての説明が多かった。また、製品を身にまとった時の快適さなどの着心地や、あたたかさなど、人間が感じることを中心に述べられていた。さらに、文の形式では、文が短く、言いさし、体言止めが多く見られ、口語的で軽快な印象を与えていた。ユニクロは、製品を使う人間側の快適さを中心において、感覚に訴える説明をしている、と考えられる。

これらの両社の違いを大きくまとめれば、無印良品が商品を購入するときの人間の脳に訴えており、ユニクロは着用するときの人間の心に訴えていることになる。そして、その違いが、両社の印象の中核にあると思われる。

参考 URL と (参照日付)

無印良品

<https://www.muji.com/jp/ja/stories/clothes/580726> (2021/1/16)

<https://www.muji.com/jp/ja/feature/clothes/485736> (2021/1/16)

<https://www.muji.com/jp/ja/feature/clothes/96621> (2020/12/18)

ユニクロ

<https://www.uniqlo.com/jp/ja/contents/feature/uld/women/> (2021/1/20)

<https://www.uniqlo.com/jp/ja/contents/feature/airism/women/> (2021/1/16)

<https://www.uniqlo.com/jp/ja/contents/feature/heattech/women/> (2021/1/16)

洗剤の商品にかかわる表現

北 畠 る り 子

1. 調査の動機と目的

2020 年は新型コロナウイルスの影響もあり、休日の外出もできるだけ控え、家で過ごす時間が非常に増え、これまでより時間に余裕ができるようになった。その時間の一部を掃除にあてようと思い、洗剤を購入することにした。洗剤の容器に様々な情報があり用途によって、どのような違いがあるのか、どのような表現が使われているのか、なぜそのような表現が使われているのだろうかとなった。

このレポートでは、これらの特長・表現・意図について、その共通点と相違点に着目し、洗剤の用途別でどのようなオノマトペの表現があるのか、なぜそうなっているのかを考察した。

2. 調査の方法

2-1 調査対象

洗剤は、家庭で使われる主な3種類を取り上げた。洗濯用洗剤、食器用洗剤、住宅用洗剤である。これら3種類は、日常生活で頻繁に使われる身近な商品である。調査対象に選んだのは、花王・ライオン・P&Gの大手洗剤メーカー3社である。これらの3社にはヒット商品が多く、いずれも身近で手に入りやすく、本調査の対象に適していると考えた。

今回の調査対象にした洗剤は、次の通りである。

◆洗濯用洗剤

アタック 高活性バイオEX、アタックZERO レギュラー、ニュービーズ（以上、花王）
アリエール イオンパワージェル プラチナスポーツ（P&G）
トップ、新スーパーNANOX（以上、ライオン）

◆食器用洗剤

キュキュット、ファミリーフレッシュコンパクト（以上、花王）
除菌ジョイコンパクト シリーズ、ジョイ ミラクル・クリーン 泡スプレー（以上、P&G）
Magica（以上、ライオン）

◆住宅用洗剤

ガラスマジックリン、バスマジックリン、トイレマジックリン 消臭・洗浄スプレー 消臭ストロング（以上、花王）
ファブリーズ（P&G）
おふろのルック、トイレのルック 除菌消臭EX（以上、ライオン）

2-2 調査方法

上記の商品について、それぞれの容器に記されている情報や、インターネットで説明されている情報に着目した。それらの情報のうち、用途、形状、香りに関するものを取り上げることにした。ただし、洗剤の成分についての記述は、今回の調査には不要であるため除いた。

取り上げた情報をもとに、「汚れの表現」「汚れの落とし方」「汚れが落ちた結果」「洗浄力の説明」「香り」を説明していると捉えられる箇所を抽出して分類した。それが次の表「商品別特長別一覧表」である。

表 商品別特長別一覧表

対象	商品名	汚れの表現		汚れの落とし方		汚れが落ちた結果	洗浄力の説明	香り
		汚れ	におい	状態	速さ			
衣類	アタック 高活性バイオ EX	ガンコな汚れ	におい	しっかり除去		驚きの白さ	こだわりの洗浄力・パッと溶けやすい	フローラルソープの香り
	アタック ZERO レギュラー	落ちにくい汚れ	生乾き臭			衣類がよみがえる		リーフィブリーズの香り(微香)
	ニュービーズ	落ちにくい黄ばみ・くすみ	部屋干しのイヤなニオイ	スッキリ落とす		きれいな白さ		みずみずしく新鮮なすずらんの香りをぎゅっと凝縮
	アリエール イオンパワージェル プラチナスポーツ	蓄積した汚れ	しつこいにおい				史上最強消臭洗浄	
	トップ	ガンコなエリ・そで汚れ		スッキリ落とす		白く洗い上げる	ダマにならない・冷たい水もよく溶ける洗浄効果	
	新スーパーNA NOX	エリ・そで黒ずみ・皮脂・黄ばみ汚れ/油性・水性食べこぼし汚れ	汗臭				洗浄効果の発揮	
食器	キュキュット	べったり油汚れ		サッと泡切れ	手早く	キュッと実感		オレンジの香り
	ファミリーフレッシュコンパクト	しつこい油汚れ		スッキリ				ライムの香り
	除菌ジョイコンパクト シリーズ	ヌルヌルの菌の巣・油汚れ			すすぎの時短化		最強洗浄力・除菌力・泡立ちがもっと早く!多く!泡切れスピードアップ	
	ジョイ ミラクル・クリーン 泡スプレー	油汚れ・様々な汚れ		スプレーするだけ・こすらずに	スピーディに分解・ラクに落とす		洗う時間50%短縮・直接アタック	緑茶の香り
	Magica	こびりつき汚れ		まな板・スポンジ・ふきんもしっかり除菌	圧倒的な水切れスピード		食器が早く乾く!清潔!	
住宅	ガラスマジックリン	ホコリ・手あか・くもり		スッキリ落とす		ピカピカ・透明な仕上がりがたれにくい		

バスマジックリン	しつこい汚れ		らくらく落とす・スッキリ落とせる				
トイレマジックリン 消臭・洗淨スプレー 消臭ストロング	便器内・床	尿臭を防ぐ				とても便利・ちよい拭き掃除・除菌・防汚	フレッシュハーブの香り
ファブリーズ		消臭	除菌			ベッド・ソファの布製品も繊維の奥まで除菌・消臭成分がしっかり	
おふろのルック		尿臭を防ぐ	スッキリ落とす	泡ぎれも早い		泡ぎれも速い	オレンジの香り
トイレのルック 除菌消臭EX	ふちウラの汚れ	消臭	除菌			除菌も消臭もできる	爽やかなフレッシュハーブの香り

3. 結果と分析

① 「汚れの表現」について

衣類：ガンコ、落ちにくい、黄ばみ、エリ・そでの黒ずみ・ニオイ

食器：べったり、しつこい、ヌルヌル、こびりつき

住宅：ホコリ・手あか・くもり・しつこい・ふちウラ・尿臭・消臭

共通点：ガンコでしつこい汚れを対象にしている。

相違点：衣類と住宅は、ニオイも対象にしているが、食器はニオイを対象にしていない。

住宅のベッド・ソファの布製品は、除菌・消臭のみで具体的な汚れの表記はない。

② 「汚れの落とし方」について

衣類：しっかり、スッキリ

食器：サッと、手早く、スッキリ、スピーディ、ラクに、除菌

住宅：スッキリ、らくらく、除菌

共通点：スッキリ、特に衣類は、「頑固な」汚れをスッキリ落とすことをアピールしている。

相違点：食器と住宅は、「楽に」汚れを落とすことをアピールしている。また、食器と住宅は「除菌」もアピールしているが衣類には除菌は注力していないと推測できる。

③ 「汚れが落ちた結果」について

衣類：白さ、よみがえる

食器：キュッと実感

住宅：ピカピカ、透明な仕上がり

共通点：汚れが白く、よみがえることをアピールしている。

相違点：食器は「キュッと実感」、住宅「ピカピカ・透明な仕上がり」のみの表現であり、表記がないのが目立った。食器、住宅とも汚れが落ちることは当然であるということからあまり注力されていないと推測できる。

④ 「洗淨力の説明」について

衣類：洗淨力、パッと溶けやすい、史上最強消臭洗淨

食器：最強洗浄力、除菌力、スピードアップ

住宅：たれにくい、除菌、防汚、消臭

共通点：食器と住宅は除菌の表現の使用がある。衣類と食器は洗浄力の表現の使用がある。

衣類と住宅は消臭の表現の使用がある。

相違点：衣類は除菌の表現の使用がない。住宅は洗浄力の表現の使用がない。食器は消臭の表現の使用がない。

これらのことにより衣類、食器、住宅とそれぞれの表現から用途別に注力してアピールしていることがよくわかる。

⑤ 「香り」について

衣類：フローラルソープの香り、リーフィブリーズの香り(微香)、すずらんの香り

食器：オレンジの香り、ライムの香り、緑茶の香り

住宅：フレッシュハーブの香り、オレンジの香り

共通点：洗剤は汚れを落とすことだけでなく、商品としては洗剤の香りも重要である。

相違点：衣類と食器は特に多く見られる。ただし、住宅のガラス、バスマジックリンとベッド・ソファの布製品については、香りは対象ではないこともわかった。

4. まとめ

今回の調査で、「汚れの落とし方」について、オノマトペが多く使われていることがわかった。特に食器の台所用洗剤は、「汚れの表現」についてもオノマトペの表現が多い。衣類についても同様に、オノマトペが多く見られるが、衣類は「よごれが落ちた結果」の「驚きの白さ」、「よみがえる」などの形容詞や動詞の表現にも注力されていると思われる。これらは、消費者の購買意欲を刺激することを意図しているとも考えられる。

本来、洗剤の説明の表示は、数字などのデータで表すのだが、オノマトペで表現しているということは、おそらく汚れを落とす効果はあまり差がないことから、オノマトペの表現により、消費者の購買意欲を情緒的に刺激しているのではないかと考えた。

また、香りについては、衣類、食器、住宅ともに汚れを落とすことだけでなく、商品としては洗剤には香りの重要さも必要であることがわかった。

今回用途別の洗剤のオノマトペ表現などに疑問をもったことから調査し分析をした。用途別の商品の共通点、相違点が整理できた。今回の調査に対象としなかった商品についても今後追求していきたいと思う。

出典：花王 <http://www.kao.com/jp/> (R3.3.8 閲覧)

ライオン <http://www.lion.co.jp/products/platnum.htm> (R3.3.8 閲覧)

P&G <http://www.myrepi.com/brands/ariel> (R3.3.8 閲覧)

肩書が示すもの ―私は何でしょう？―

高野 啓

1. はじめに

ある新聞社から、好きな作家について電話取材を受けました。そのとき、最後に仕事（肩書となるもの）について尋ねられました。30年間大学の通信教育の仕事をして、それで税金も払っていますが、そこに会社しているわけでもないので勤務しているという実感はありません。他に、ボランティアでNPO法人の理事をしています。改めて仕事上の肩書に書くほどでもないような気がします。それで、結局「主婦」と書いて下さいと言いましたが、果たして私は主婦なのだろうかとの疑問も湧きました。夫もない自由な暮らしは、世間の主婦というイメージとは異なる気がしてしまっただけです。では自由に暮らしているから「フリーター」というのもあるかと思いましたが、これもちょっと違う。生活の糧は年金で賄っているから「年金生活者」なのかしら。でもやはりしっくりこない。一番書いてほしかったのは、この日本語塾の「76歳、学生」なのですが、受験して合格したわけではなく学費を払っているわけでもないのだからそれはおこがましいし、私は一体どのように自分を表現すればいいのでしょうか。

このような経験から、自分を表す肩書について考えてみようと思立ちました。

2. 肩書とは

そもそも肩書とは、どのように定義されているのかを知りたくて、国語辞書で引いてみました。

* 岩波国語辞典 第6版

- ①氏名の右上に職名などを書くこと。
- ②地位・身分・称号。「―がものをいう」

* 三省堂国語辞典 第7版

- ①その行の右ななめ上に書きそえ〈ること／た文句〉。
- ②姓名(セイメイ)の右上に書きそえた地位・身分など。
- ③地位・身分をあらわすことば。「―がものを言う」

* 新選国語辞典 第9版

〔名刺などで氏名の右肩に書いたことから〕人の職業や役職。「―がすばらしい」

* 新明解国語辞典 第7版

- ①縦書きにしたその言葉の右上に注釈的に書き添えること。また、その語。
- ②〔縦書きの名刺、書類などで〕その人の氏名の（右）上に書く官職、学位など。「―

〔=(いい)社会的地位〕がものをいう／いくつもの一を持つ〕

* 明鏡国語辞典

①名刺などで、氏名に書き添える職名や役名。

②社会的な評価の対象となる地位・身分・役職など。 Ⅱ 「一が物を言う世界」

これらを見ると、肩書は、縦書きの世界で、注釈として右上に書くこと、また、書かれたものを指すということが、基本にあるようです。右上がちょうど人体で言えば肩の位置にすることからの名づけと思われます。そして、その始まりには、名刺に書かれることと深い関連があると思われます。

こうしたことから考えると、肩書は、その人の職業や役職を注釈的に示すことが基本のはずです。しかし、取り上げた辞書5冊のうち4冊までが、「肩書がものを言う」との例文を挙げています。このことからわかるように、肩書は単なる注釈を越えて、何らかの力をもつ、社会的な身分や地位を示す役割を果たしているということでしょう。

3. 肩書のバリエーション

では、実際にどのような肩書があるのかを調べてみたいと思いました。そこで、肩書が表示されることの多いものに目を向けました。

(1) 新聞の投書欄

新聞には一般の読者からの投書欄があり、そこには肩書が載せられています。そこで、神戸新聞の投書欄「オピニオン」の7日分を調べてみました。(1日5人 計35人) その結果は以下の通りです。

①主婦 16人

②無職 9人

③勤め 自営業 似顔絵師 薬剤師大学職員 パート 団体職員 介護職員 農業
会社員 各1人

圧倒的に主婦が多い結果となりました。読者層に主婦が多いのかもしれませんが、それにしても主婦は肩書として便利なものかどうかということでしょうか。それと同時に無職というのも社会的評価の手掛かりになるということのようです。これもおもしろく感じました。

ただ、神戸新聞の投書欄は高齢者が多い印象があります。もし過去に働いていてリタイアした人が投稿した場合、女性であれば主婦、男性であれば無職となるのでしょうか。ここには、男女に関する古い価値観が存在している可能性が高そうです。

③の例を見ますと、「農業」という漠然としたものがある一方で、「似顔絵師」という具体的な職業名が見られます。また、「薬剤師大学職員」は「団体職員」でもいいような気がします。これらは、表示される肩書が本人の要望によって決められているからでしょうか。そうだとすると、上記の男女の古い価値観は、新聞社の問題ではなく、一般の人々の意識にあるということになります。

なお、投書の内容を読むと、肩書は必要がないものがほとんどでした。投書には全て年齢

が合わせて表示されていて、肩書よりも、どの年代の人の意見かの方に意味があると感じられました。その点では、肩書を示す必要がないようにも思われます。それにもかかわらず示しているのは、肩書には何かもの言う力を持っているということでしょうか。

(2) テレビコメンテーター

①報道番組・NHK日曜討論（2月21日）

（この日はコロナ対策がテーマでした。）

厚生労働大臣 国立国際医療研究センター国際感染症センター長
感染症対策分科会長 西埼玉中央病院感染症看護専門介護士
困窮孤立する若年層女性などの支援プロジェクト代表。

②ワイドショー・テレビ朝日モーニングショー（月～金）

タレント（気象予報士） ノンフィクション作家 弁護士（大学准教授）
タレント（元野球選手） ジャーナリスト（元新聞記者）
ジャーナリスト（元雑誌編集長） 女優（エッセイスト）

2種類のテレビ番組について、コメンテーターの肩書を見てみました。同じようにコメンテーターといっても①と②では役割は大きく違ってきます。

①の報道番組の場合は、「報道」とあるように世の中の出来事を広く一般に告知するという目的があります。そのコメンテーターの意見は視聴者の知識の啓蒙を目的とした専門家のものであるはずで、視聴者からすると、そのコメントは話題の事柄について正確な知識を得て自分なりにどうするべきか、などを考える手掛かりとなるものです。したがって、そこに出演する人の肩書には、その話題についての専門家であることを明示する役割が求められます。実際、①の肩書を見ると、専門家であることを示したものとなっています。

他方、②のワイドショーでは、司会者が提示した問題についてコメンテーターは視聴者代表として様々な意見を述べるもので、一種の井戸端会議のように感じられます。視聴者も、それを見て共感したり反発したり、コメンテーターと同等の立場でその問題を見ています。したがって、コメンテーターの肩書も、その問題はこの人でなくてはならないというものでなく、知名度や好感度が比較的高いもの、知性を感じさせるものが選ばれているように思います。

②に挙げた例を見ますと、そうしたものに当てはまります。そして、何より①と違って、特定の個人を指す肩書ではありません。例えば①の「厚生労働大臣」はこの世に1人ですが、②の「タレント」であれ「気象予報士」であれ、決して特定の個人を指し示していません。つまり、一般人の一人という立場を示す役割を果たしているのです。

(3) ネットの書き込み

少し視点を変えて、変わった肩書はないかと、インターネットの世界で名乗られている肩書から、珍しいものを集めてみました。すると次のようなものがありました（カッコ内は肩

書を付けた本人による注釈)。

- ・和菓子ハンター (和菓子愛好家)
- ・非日常クリエイター (イベント運営、コテージ経営)
- ・ハッピーディスティニーデザイナー (占い師)
- ・世界創造家 (イラストや小説を書く)
- ・あそび人 (着物着付け、着物で街を歩くなど遊びで生計をたてる)
- ・サメ社会学者 (サメ愛好家)
- ・いい女クリエイター (いい女を作る web サービスをやりたい)
- ・頭の悪い聖徳太子 (人の話が気になるが3人まだ同時に聴けるが10人はムリなので頭がわるいとなる)
- ・魔女 (とにかく怪しい)

ここでは肩書を社会的評価という視点からではなく、自分自身をこう見てほしいとかこのようにありたいということで捉えています。あくまで主観的な名称であるので、辞書にある肩書の定義とは少しニュアンスも違ってきます。

しかし、肩書の末尾が「デザイナー」「家」「者」など人を表す語が使われていて、肩書らしさを残しています。その意味で、「頭の悪い聖徳太子」「魔女」は肩書らしくありません。「頭の悪い聖徳太子」は、注釈からもわかるように状態を示しているだけで、社会的な立場やポジションを示していません。ですから、肩書としては失格と言えましょう。「魔女」は、人間でないかもしれませんが、人間のような存在を示す点では合格ですが、社会的な役割やポジションを示していない点で不適切でしょう。昔、女子バレーボールチームのメンバーが「東洋の魔女」と呼ばれていました。「〇〇な魔女」なら、社会的な立場を示すことも可能になり、肩書らしくなると思われます。

4. 肩書のあやふやさ

以上から、肩書には、「〇〇大学学長」のように、その人が社会的な役割として、どのポジションにあるかを具体的に示すものと、「文法研究者」のように、どのような立場にあるかを、範疇を表す語で示すものがあることがわかりました。前者は特定のものなので、自分で名乗っても他人から称されても同じになります。しかし、後者は、例えば「文法研究者」の代わりに「日本語研究者」と呼ぶことも可能なので、人や場合によって異なることが十分に起こります。肩書というものが、かなりあやふやなものであるように思えます。しかし、それにもかかわらず、社会的な評価にかかわり、「ものを言う」ことにおもしろさを感じました。

5. おわりに

さらに、後者のパターンは、特定できない分、自由度があるので、本人が自分好き勝手に名乗ることも可能です。その極端な例がネットに出現しているのだと思います。

本来肩書というと、辞書にあるように名刺に記入することを前提にして、その人の社会的評価を表すものでしょう。しかし、自分で自由に名乗れる肩書もありうるということから、自分が自分で肩書を付けるとすればどうなるのだろうかと考えてみました。

そのために、友人に私の肩書を考えてもらいました。

・愛猫家 ・茎わかめ佃煮熟練製作者 ・焼き鳥〇〇常連客 ・庄野文学愛読者。

という返事がきました。

それに少し自分の思いを加えると

・街歩き愛好家 ・楽しいこと探索家 ・お好み焼き〇〇常連客 ・宝塚歌劇愛好者
などが考えられます、それにこうなりたいという自分の願望を付け加えるなら

・努力家 ・楽道家

なども浮かんできます。

ここまでいろいろと考えてきましたが言葉で自分を表すということは、とても難しいことだと気づきました。これらは確かに自分のある一部ではあるけれど、それが自分だ、という納得できる肩書を見つけることはできませんでした。

若いころ、大人は誰もが自分をしっかり持って自信をもって人生を送っているように思っていました。今私自身の中では「自分とは何か」という思いがどこかにあるのです。アイデンティティーなど口にするのも気恥ずかしいのですがもう少し自分とは、ということを考えていると思っています。

《記 録》

開講場所：武庫川女子大学言語文化研究所 研究所棟 I-609

開講日時：

第1回 2020年10月3日(土)
10時30分～12時30分



第2回 2020年11月14日(土)
10時30分～12時30分



第3回 2020年12月19日(土)
10時30分～12時30分



第4回 2021年2月6日(土)
10時30分～12時30分



第5回 2021年3月13日(土)
10時30分～12時30分



企画・開催 佐竹秀雄（本研究所研究員） 岸本千秋（本研究所助教）
レポート指導 佐竹秀雄 岸本千秋
開催補助 向井弥生（本研究所職員）

◆冊子での刊行は本号が最終となります。今後は、言語文化研究所のホームページにてPDFデータを公開いたします。過去の号もご覧いただけますので、ぜひ、ご高覧ください。URLはこちらです。

<https://www.mukogawa-u.ac.jp/~ILC/report/magazine/cram.html>

オトナのための日本語塾
レポート集 2020

刊行 2021年3月31日
編集 佐竹秀雄 岸本千秋
〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46
武庫川女子大学言語文化研究所
電話 0798(45)3536
FAX 0798(45)3574
Mail ilc@mukogawa-u.ac.jp
URL <http://www.mukogawa-u.ac.jp/~ILC/>
発行 武庫川女子大学言語文化研究所
印刷 大和出版印刷株式会社
